臺灣日日新報 夕刊
三月二十二日 一部定價
夕刊所 臺北市榮町一丁目一番地 電話(三)番
發行所 臺北市榮町一丁目一番地 電話(三)番
臺北市榮町一丁目一番地 電話(三)番 基隆支局
臺北市榮町一丁目一番地 電話(三)番 中支局
臺北市榮町一丁目一番地 電話(三)番 南支局
花蓮港街入船町 花蓮港支局
大阪市西區江戸堀通一丁目 大阪支局
(ユタカビルディング内)
東京市京橋區銀座三丁目 東京支局
(第二版) (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十四年三月二十二日 (水曜日) 臺灣日日新報 第一万四千十四號 A (一)

臺灣日日新報 夕刊

英佛ソ二ケ國は公敵

和平救國の大義より

速に中國より驅逐せよ

若し假りに作戰上の必要が級和された場合第三國に對し少數國の自由飛行を許すことがあつても中國民衆は公敵國の我が領内自由通航を許すことは出來ぬ、日本は戰後の中支復興促進のため作戰上これを許すに至れば先づ友邦獨、伊國關を先に擧げ之を開放すべきである、獨、伊は吾人の公敵である、重慶政府を消滅するとともに逆力に英、佛、ソを中國より驅逐するのが和平救國の第一步であることを言ふ

英國は勝手過る

"反獨策謀は將に犯罪行爲だ"

獨逸外交通信が所報

英國は總ゆる條約とか問題とかを唯自分に都合のいい角度からのみ見てゐるとの印象を與へずには置かない、英國はドイツが生存のために適當な領土を求めようとするのを阻害しつつあるのである、殊る獨逸の下に於てはドイツはその政策を根本から改廢するの餘儀なきに至るであらう

反侵略宣言案を決定

各國に參加慫慂

倫敦外交界極度に緊張

【ロンドン二十日發同盟】英政府は二十日の閣議席上で反侵略宣言案を決定、直ちに佛ソ兩國を始め各國に通達した模様であるが閣議に先立ちハリファックス外相はパソキンガム宮殿に伺候してジョージ六世陛下に宣言案に關し後チェンバレン首相と共に謁見、直後英國閣僚緊急會議を開き宣言案の最終的決定を見たが、新たなる紛糾を避けるため宣言の價値は全く零

○

獨逸の中歐制覇は勿論その一大進軍たること疑ひなく、世界の公敵コミンテルンの赤き魔手こそ防止されて然るべきこと

○

東洋平和の爲めに從へる者ども

○

國際信義も(デ)もないソ聯を引き込めば一見尤もらしい反侵略宣言の價値は全く零

○

國際聯盟も(デ)もないソ聯を加盟せしめて何の平和ぞや

○

ソ連邦を中心とする集團安全保障こそ眞の平和機構

○

ソ連邦の安全保障こそ眞の平和機構

○

ソ連邦の安全保障こそ眞の平和機構

○

ソ連邦の

白衣の勇士に朗報
精密な義手を完成
時計の分解や農耕も出來る

【東京二十一日發同盟】白衣の勇士の朗報――戰爭負傷者用及び勞働用精巧義手の發明に成功、その實用試驗が二十日午後行はれた、不具者の勞働再教育、整形外科治療と共に義手研究製作に續けて來た帝國軍人後援會では聖戰の犧牲となつた勇士達に出來得る限り以前の勇姿に就きうる樣にと義手の研究を續けた結果、戰爭負傷者用と勞働用の義手の製作に成功したものである、實驗者は北支戰線で左手の親指以外の四指を失つた井川榮次上等兵(新潟縣)と中支戰線で右上膊二分の一を失つた米井勝藏歩兵伍長(京都府)で、井川君は以前時計職で指を失つてから細い時計部分品を取扱ふビシセットの使用が可能となつた結果、今年一月上京以來同社で再教育を受けると共に實驗台として今日迄に約二ヶ月の訓練を經過、今回の實驗となつたもので、義手は非常な成功で、井川君は時計を分解したり立派に組立てたり、米井君は鍬を切つたり鋏を使つたり金槌を使つたりする程用から重労働作業などの力仕事まで殆ど自由になつて參考品として同君に記念に贈呈した、尙記者團の通知の際は市内各署に於ける國民の動靜を一般警戒を一段厳重にし

四十男の悲哀

夫婦・溝を撤回

衰弱神經・全身疲勞無氣魄

（新精力増進）

老人若嫁を娶る

歐米人に學しい日本人三四十代の疲勞

一對の男女は社會の單位である、夫婦の關係が圓滿なければ地球は滅びる、青年、壯年の年齢に、旺盛な體力氣力を缺いで居ることゝ可能とか夫婦生活が全つて消極的であることは地球に缺陷だ、部が出來たことになる結婚も、結婚生活も消極的にするのも個人の役目であつて地球上の問題である、文明歐米人の考へは早くから盛に集まつて、青年壯年の體力の活躍は勿論、老を指すや六十、七十に若い花嫁を迎へてゐしも恥としない、人は死ぬまで生活を社會に、貢獻へを知らなければ理想の生き方である。

ホルモン效果を倍にする新學說

人の體には力の源ホルモンを生み出す無數の細胞と云ふのがある、細胞が細胞の働きをする間は一個の體、一個の中にもホルモンの原料を與ることは大ケ數くない、神經衰弱、過勞、年齢から疲勞が來て細胞の仕事が鈍ると體やせ衰からホルモンを取り入れるのが最も近つた細胞の集まる體にホルモン注入では效果は一時であるから細胞も働かせホルモンの原料も與へなければ根本的の治療は望めない。

本藥の原素が効く

支那では昔一日百回にも及ぶ旺盛な繁殖力の動物の食物を調査すると驚くべき事實が訳つた、人體にホルモンを發見するにはキングオブキングスを用いなければならない發見を、羽太鋭治博士が為し遂げた、本藥品の成分はホルモンの原素であり、直接血液所の細胞を働かせる作用に強い物があるから、强壯劑の様に用ひ遊もせず、注射の效果が直接であるから確實なのと同じであるが、服んで効目が一時でない所は本藥獨立の特色である。

御註文は直接に

藥價は壹箇月下です、一八〇錢半円、一〇〇錠一円、六〇〇錠十円、且下送劵に試みる方にお分けする可何から藥店には置きません左の處へ代金引換か振替か直接お申込み下さい。送料各十五錢

東京市芝區濱新町十三

合名會社　春泉堂

（振替東京七七七番）

醫學博士　羽太鋭治先生發見

若い後妻に適應する體力へ

（大阪）九藤鶴夫

小生廿四歳で結婚した際が廿一年目に先に、断ご二子になる後添へを迎へました、初めは自分の體力に相當自信あつての再婚でしたが、いざとなつて全る切り當にならない體力を悔り、到々新藥をヒステリーにしました、毎日鳴る緩衝に身を燒き何彼と小生に反抗しわめく、引つ掴く、突、亜所謂は勿論、同時、親戚にも體裁でもあり緩度か離別を考へましたが、自分の體力の缺点の當に氣の附いてキングオブキングスを服用しました（中略）事はれないものです、私の根本的な體力が裏の體度を一變させ、暗黒から光明の家庭へ（中略）御藥の效果に驚れ入りました。

男四十からを實行して圓滿

（兵庫）倉波增吉

年齢が歳を超して漸く疲労を感じなくなり自然妻への愛情も心ならず遠退いて、妻の不満な感情を事毎に感ずる様になりました。思ふなると苛々と、倦怠に似た憂鬱的な感情が此方にもムク〳〵頭を擡げて妻の一寸した過失も憎へて憫る、嫌な結果もこれに關聯するのは勿論です（中略）中学と同級の醫師にサングオブキングスの服用を勧められました（中略）此種の藥は多く只のホルモン劑で期待程の效果もないと聞いてをりましたが（中略）しかしキングスを服用してからグン〳〵活氣を増し、妻の扱ひも四圓に行つて彼女の感情も訊ねなくなりました。（後略）

六十の父が水々しい元氣

（熊本）羽賀三郎

学校の成績が七番から一等に四十五番に轉落した原因を神経衰弱と訳つてキングオブキングスを服用（中略）小統一で服藥で一瓶の後に頭を恢復しました、（中略）愛給巻しの六十を過た父が多年體力氣力の減力から頑固な子供迄にも犯されて永く煩悩の結果キングスをこの父に勧めました（中略）是非國産に於つて旺盛な精神力を復活した父、愛給の消停生活から足踏に街頭へ出て自分經の小資本ながら經營な藥業が宜しきを得て會社が相當の利益を擧げてをります（中略）父は最後までキングスを愛服すると愛給つてをります（後略）

ホルモンより倍の效果

醫學博士　羽太鋭治（第一部）

元來蓋し牛のホルモンは注射用として專に效果で内服用とするには操作の上の困難から效果も少ふず疑惑されてゐた、今はホルモンの其の製を通めてホルモンの藥素、つまりホルモンは何によつて人體・動物體に表れるかを探し行き詰めて得たのはキングオブキングスである、本藥品はホルモンの藥素であり故でもあるから、ホルモンの效果を倍かに倍にしてある故み易く副作用がなく、愛用者多い理由が如何にも明かである。

効藥治淋特効藥治淋特効藥治淋特

開花三世相

村松梢風作
中一彌畫

(131)

毒の雨（三）

「猿橋さん、お願ひですから此の盥をやつて下さい」

「そりや駄目だお龍さん、龍者はお前さんの命を預かる役目を引受けてゐるのだ」

「それぢや盥を此の儘殺すと叫しやるんですか」

「氣の散だが命を預かる」

猿橋は刀を引き寄せた。お龍は必死になつて叫んだ。

「猿橋さん、どうか助けて下さい、お願ひです、此してあなたの御恩は忘れません」

「お龍さん、そんなに、命が惜しいと」

「それあ死ぬのは厭ですとも」

すると猿橋はニヤ〳〵笑つて、

「お龍さん、それ程お前さんが助けてくれと云ふなら助けてやるまいものでもないが、試いちやあ一つ相談があるがどうだ」

「どういふ御相談でせう？」

「お前さんの命を助ける代りに、盥の親父を、聞いて貰ひ度いのだ」

「どんな御頼みか知しやつて下さいまし」

「来津をやめて、龍者と夫婦になるか」

「えつ」

「何も驚くことアなからう、命を助けてやつたと云ふに女房にして可愛がつて遣らうといふのだ。實アお前さんお前にそつこん惚れてゐたのだ。だが、来津民次郎といふ者があつては仕方がないから諦めてゐたが、かうなつて見れば何も来津に遠慮することアありやしねえ。お前だつて何も堅氣の女房ぢやあるまし、あんな破廉恥な男に義理を立てるより、盥の女房になる方が私娼窟の女郎でどれ程利口だか知れやしねえそれとも来津のことが心配になるなら、いつそ来津を殺して仕舞はう。さうしたら甲斐甲斐しの一件だつて、人に知れる氣遣ひはないから、警官安心といふものだ。どうだお龍、殺か殺か、返事をしねえ」

猿橋は盥の襟を捉へ揺ぶつた。お龍は新聞記事などとてもかやかで自分と会つた眼許で相手の顔を見詰めて今迄、都に殺して歩りましたのさ」

「それぢやお尋心が」

「尋心ですとも、どうか後腐れのないやうに民次郎を殺して仕舞つて下さいまし」

「よし心得た、さつと来津は殺してやるから安心するがいい」

猿橋さん、其の代り、民次郎のやうに深傷をしたら感知しませんよ」

「どうして〳〵深傷なぞしてよいものか、龍者はお前のためならどんな事でもする覚悟だ」

「それが誠なら妾や嬉しゆうございますよ、実はあの民次郎には妾もたうから愛想が盡きてゐました

二、生花　三、投入花瓶華四、盛花（色彩花、盥盛花）

現在の生花の形は、池坊立華から生れたもので、立華といふのは、枝を足をしたり、鋏金でからめたりして、全く盛りものに拵へ上げて出来たものである。これを盥盛にし、自然を盥に生けたものが盥盛生花である。

投入花、盥盛華は古くからあつたもので昔は生花の家元が、瓶華を生けてゐたので、又投入盛容が、華道としても榜を持たずに、ただ風流に投入を楽んでゐたものである。これが明治の中頃になつて、盛花が現れて来ると同時に、投入も家元が現はれて来た。であるから現在の投入は、一つの榜を持つ流派を備へてゐる。

盛花は流儀としては、明治三十年頃、小原流が盛花の名のりを挙げたのが嚆矢で、これが非常な勢力で現在にまで流行し出して来たのである。この盛花の中、色彩花といふのは西洋文化が入つて来て色彩の面白さを見せるといふのがその原因となつてゐる。彩色花の方は既に生花の水盤の扱ひの中で、どの流派にも用ひられてゐるが、盛花の彩色花は、生花とは、趣を異にし、自然の風景を描へて、盛花化してゐるといふ事が出来る。

今週の映画

松竹大船作品

居候は高鼾

二十三日から

タイゲキ

演出は清水宏、撮影は原田雄治、夏川大二郎、大山健二、坂本武、吉川満子、高峰三枝子、川崎弘子等が出演。椎橋一雄扮する大学の柔道部の花形二郎は、ある大邸の令嬢と恋仲になつてゐるが、同時に、貧盛であつたものが、現在では逆へて、いつかうに振はないのなど、いろ〳〵ある。

華道のすべては、左のやうに分類することが出来る。一、立華

華道の歴史

近来日本精神の昂揚が叫ばれ国民情操の涵養が、盛に唱へられて来た、その一つの現れとして傳統的な日本的藝能が盛に華道が盛んになつて来た、これは日本のみでなく米国各地に於ける華道の研究団は盛んなもので、昨年秋風流家元の押川如水女史が華道行脚に渡米各地で講演をしてから更に

隆盛し、小野妹子に傳へたものを小野妹子が開祖として、六角堂の観世音に仕へながら供華に使つてゐたのが、傳へられて、華道の起源になつたといはれてゐる。又その當時の遺跡伝から、花背草木を立體化して自然の形を現はしたものが立華で、これが華道の基礎となつたとも考へられてゐる。

これがだん〳〵傳へられて、やがて各流派が出来たのであるが、その起りについても各流がそれ〴〵の定説をもつてゐるので、誰れが正しいか、嘘各流とも、その流儀を東山時代においてゐるといふことは、申合せたやうである。

華道が最も流行し出して、多くの流儀流派が出来たのは、徳川の文化、文政時代で、この當時にも流派は相當な数に上つてゐるかこれが、時勢へて、更に明治に入つて、急に衰退盛んになつて、現在では、百五流位を数へるほどになつてゐる。併し、この中でも正統の流派は非常にゆい。

現在全国にある流派を上げることは、大変なことであるが、これを大別すると、自然の形を抽花に現はしたもの、自然の景観を現はしたもの、この二つに分けることが出来る。更にその中で、基本形の完全に備つてゐる流派を上げると、池坊、立華古流、相阿彌流、未生流、美流、松月堂古流、青山御流、遠山流、小原流、草月流、雪州流などがある。歴史の新しい流派が、五百流の中には、相當あるが、同時に、盲盛であつたものが、現在では逆へて、いつかうに振はないのなど、いろ〳〵ある。

華道のすべては、左のやうに分類することが出来る。一、立華

商況（廿二日）

臺灣正米市場

前場

▲一期逢場
當　中　先
三、八　三、七　三、八
五月限新米
五月五日限　初上場　寄二百、止二百、高二百、安二百

▲一期逢場
當　中　先
三、八　三、七　三、八
五月五日限
五月五日限　初上場　寄二百、止二百、高二百、安二百

▲一期丸臨
四月廿日限
當　中　先
三、七　三、八　三、八
五月限新米

▲一期丸臨
四月廿日限
當　中　先
三、七　三、八　三、八
五月限新米

中場

▲一期逢場
當　中　先
三、八　三、七　三、八
五月限新米

▲一期逢場
當　中　先
三、八　三、七　三、八
五月限新米

▲一期丸臨
四月廿日限
當　中　先
三、七　三、八　三、八
五月限新米

▲一期丸臨
四月廿日限
當　中　先
三、七　三、八　三、八
五月限新米

（第二種）（明治一年一册三第三郵便物認可）昭和十四年三月二十三日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万四千十四號　A（一）

臺灣日日新報

夕日本刊共十二頁
社長 木々佐 人行發發編
臺北市榮町三丁目四番地
臺灣日日新報社 所行發
電話 代表五八〇二 編輯局二四〇六 營業局五八〇三 印刷工場二四八三
定價 一部六錢 一月前金四圓五拾錢 三月前金拾二圓 半年前金廿四圓 一年前金四拾八圓 郵送料 一部前金四圓五拾錢 三月前金拾三圓五拾錢 半年前金廿六圓 一年前金五拾二圓 廣告料 特等一行十五字 壹圓 別段一行十五字 同 貳圓 通俗一行十五字 同 四拾錢 臺北二番 電報略號 臺日 臺灣日日新報社 運用五八〇三 臺灣日日新報社 臺北郵便局私設電話 臺灣日日新報社 臺北郵便局私設電話

社說

興亞院廈門連絡部への期待
積極的な機能發揮を望む

興亞院の連絡部が廈門に設置されたといふ事は、ただ單に廈門の復興とか繁榮とかいふ事ばかりの爲めではあるまいと思ふ。その使命の最も重大な點は、寧ろ「その他の地方」に對する施策にあると思ふ。我國はその南方に於て、現地を發展せしめなければならぬ幾多な地方を持つてゐる。福建祭り、廣東祭りで、之等は未だ吾等の頭上、又き現實の問題にまで至つてゐない事は遺憾だ。然かも、それ等をして、吾等の敬する現地の環境に立ち至らしむる事は、我國の興亞の大業を遂行する上に、眞に必要不可缺の要件と言はなければならないのである。此の單の實に無くして、興亞の大業を完成せんとしても、それは到底に不可能であると言ふ。興亞院が廈門に連絡部を設けた事も、此の點に

ふ。我國はその南方に於て、現地を發展せしめなければならぬ幾多な地方を持つてゐる。福建祭り、廣東祭りで、之等は未だ吾等の頭上、又き現實の問題にまで至つてゐない事は遺憾だ。然かも、それ等をして、吾等の敬する現地の環境に立ち至らしむる事は、我國の興亞の大業を遂行する上に、眞に必要不可缺の要件と言はなければならないのである。此の單の實に無くして、興亞の大業を完成せんとしても、それは到底に不可能であると言ふ。興亞院が廈門に連絡部を設けた事も、此の點に

ものから言へば、寧ろその範疇の外に屬する事ではあらうが、興亞の大業を完成する國家永遠の上から言へば、是非とも缺かなければならぬ、一つの段階ではあるまいかと思ふ。然し、吾等はさうした段階を經る事なしに、次の建設と發展の段階へ入る事が、双方の爲めに執るべき策であり、双方の爲めな幸福であると思ふ。對岸福建の大衆は、今や率然として、東亞の新なる認識を獲得し、諸事の幸福は果して何であるかを考へ、その幸福への道へ勇敢に乘出すべきであると思ふ。今かその興隆にあらうと

增稅案を可決

修正案通り 衆議院本會議

【東京二十二日發同盟】二十二日の衆議院本會議は午前十時二十五分開會、鈴木

一、北部仏印に關する件（決議案）
一、臨時利得稅法中改正法律案
一、臨時利得稅法施行令中改正法律案

（政府提出、衆議院修正）

の二案を一括して、川崎克氏（民政）の委員長より委員會における修正案を報告、大いに討論に入り

内閣制度變更の意思はない

平沼首相の答辯要旨

【東京二十二日發同盟】平沼首相は二十二日午後の衆議院本會議に於ける山道襄一氏（民政）の內閣制度改新に關する質問に對し左の如き答辯をなした

第一の御質ねは首相と閣僚との關係について首相が強力の態勢を布く事ではないかとのお尋ねである、閣僚を休職に出さず休職狀に提出して閣議の重要視を無視してゐるとの例を擧げられ、首相が法文に拒された態勢の態勢を布いてこれに依つて閣議の態勢を布いてゐるのではないかとの御質ねであつたが、私としてはなるべく速かに閣僚を提出し閣議上に於て閣僚の更調期間を短縮するやうなことはすべきでないと考へてゐる。又附屬機關や指導機關が多く、國策

中島彌團次氏（民政）戰時利得稅によつて利得したものに增稅するのは當然で政府は最初從に則踐し、十五年度においては徹底した稅制改革を斷行すべきである

森田福市氏（政友）政府は今議會終了後直ちに稅制改革に關する大審議會を設置し、民間の人材を登用、調査研究されたい

藤本捨助氏（第一）本案は

中島彌團次氏（民政）戰時利得稅によつて利得したものに增稅するのは當然で政府は最初從に則踐し、十五年度においては徹底した稅制改革を斷行すべきである

森田福市氏（政友）政府は今議會終了後直ちに稅制改革に關する大審議會を設置し、民間の人材を登用、調査研究されたい

藤本捨助氏（第一）本案は

第二囘の競賣前に 交渉を纏めたい

外相言明 貴族院豫算總會

【東京二十二日發同盟】二十二日午前の貴族院豫算總會は委員會から提出の「北部仏印に關する件」の決議案を可決、午後一時四十三分散會、次いで內閣總理大臣、外務、大藏、陸軍、海軍、拓務、內務、文部、農林、商工、逓信、鐵道各大臣出席の下に一般質問に入り、

一、國際情勢に對する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

第二囘の競賣前に 交渉を纏めたい

外相言明 貴族院豫算總會

【東京二十二日發同盟】二十二日午前の貴族院豫算總會は委員會から提出の「北部仏印に關する件」の決議案を可決、午後一時四十三分散會、次いで內閣總理大臣、外務、大藏、陸軍、海軍、拓務、內務、文部、農林、商工、逓信、鐵道各大臣出席の下に一般質問に入り、

一、國際情勢に對する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

米管案は多數で 原案通りに可決

きのふ 貴族院委員會で

【東京二十二日發同盟】二十二日午前の貴族院豫算總會は委員會から提出の「北部仏印に關する件」の決議案を可決、午後一時四十三分散會、次いで內閣總理大臣、外務、大藏、陸軍、海軍、拓務、內務、文部、農林、商工、逓信、鐵道各大臣出席の下に一般質問に入り、

一、國際情勢に對する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

日伊文化協定 けふ正式調印

外相官邸において

政府聲明、情報部長談發表

【東京二十二日發同盟】日伊文化協定締結の件は二十三日の閣議に本會議で可決御裁可を得たので發表、午後二時外相官邸においてアリッチ駐日イタリー大使と會見その正式調印を行ふことになつた同協定の內容は昨年十二月十五日閣議

【東京二十二日發同盟】日伊文化協定締結の件は二十三日の閣議に本會議で可決御裁可を得たので發表、午後二時外相官邸においてアリッチ駐日イタリー大使と會見その正式調印を行ふことになつた同協定の內容は昨年十二月十五日閣議

米管案は多數で 原案通りに可決

きのふ 貴族院委員會で

【東京二十二日發同盟】二十二日午前の貴族院豫算總會は委員會から提出の「北部仏印に關する件」の決議案を可決、午後一時四十三分散會、次いで內閣總理大臣、外務、大藏、陸軍、海軍、拓務、內務、文部、農林、商工、逓信、鐵道各大臣出席の下に一般質問に入り、

一、國際情勢に對する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

日伊文化協定 けふ正式調印

外相官邸において

政府聲明、情報部長談發表

【東京二十二日發同盟】日伊文化協定締結の件は二十三日の閣議に本會議で可決御裁可を得たので發表、午後二時外相官邸においてアリッチ駐日イタリー大使と會見その正式調印を行ふことになつた同協定の內容は昨年十二月十五日閣議

敵兵總退却開始

第九戰區は大混亂

【漢口二十二日發同盟】我修水渡河部隊は二十一日午後八時河岸を距る四里の自魯橋、難溪市、竹水龍を結ぶ南方數里に亙り敵の第三陣地を完全に奪取、引續き敗敵を西南方に向つて進擊中である、斯くて難攻不落を誇つた修水河陣地一帶も我軍に奪取され、敵第九戰區東方陣營は大混亂に陷り敵は全面的に退却を開始した

敵兵總退却開始

第九戰區は大混亂

【漢口二十二日發同盟】我修水渡河部隊は二十一日午後八時河岸を距る四里の自魯橋、難溪市、竹水龍を結ぶ南方數里に亙り敵の第三陣地を完全に奪取、引續き敗敵を西南方に向つて進擊中である、斯くて難攻不落を誇つた修水河陣地一帶も我軍に奪取され、敵第九戰區東方陣營は大混亂に陷り敵は全面的に退却を開始した

二里半に迫まる

【東京二十二日發同盟】廿日夜半過ぎ一兵、二兵協力の下に二華儘水河を

萬壽山占領

息つく暇なく急追

【東京二十二日發同盟】廿日夜半過ぎ一兵、二兵協力の下に二華儘水河を

長沙塘（富陽附近）を占領

【東京二十二日發同盟】二十一日奥知行部を開始した我が〇〇部隊は同日早くも儀塘北岸富陽附近の長沙塘を占領、引つづき敵を急

二里半に迫まる

【東京二十二日發同盟】廿日夜半過ぎ一兵、二兵協力の下に二華儘水河を

萬壽山占領

息つく暇なく急追

【東京二十二日發同盟】廿日夜半過ぎ一兵、二兵協力の下に二華儘水河を

長沙塘（富陽附近）を占領

【東京二十二日發同盟】二十一日奥知行部を開始した我が〇〇部隊は同日早くも儀塘北岸富陽附近の長沙塘を占領、引つづき敵を急

メーメル地方を 愈よ獨逸に返還

リトワニア政府發表

【コヴノ二十二日發同盟】リトワニア政府はドイツのメーメル地方返還要求を容れるに決定し二十二日ヨシミュニケをもつて左の如く發表した

一、英佛ソ聯ポーランドの代表者は二十一日ロンドンに會合し英國の對獨政策を協議した

メーメル地方を 愈よ獨逸に返還

リトワニア政府發表

【コヴノ二十二日發同盟】リトワニア政府はドイツのメーメル地方返還要求を容れるに決定し二十二日ヨシミュニケをもつて左の如く發表した

一、英佛ソ聯ポーランドの代表者は二十一日ロンドンに會合し英國の對獨政策を協議した

大事に至るまい

伊國の態度決定で

【ローマ二十一日發本社特電】二十一日發表の伊國ファシスト大評議會の議決に依れば

一、ドイツのチェツコ併合に對しては「ローマ、ベルリン樞軸に依る政策を支持する

二、英佛とポルシェヴィズムとの共同戰線に對しては飽く迄抗爭する

大事に至るまい

伊國の態度決定で

【ローマ二十一日發本社特電】二十一日發表の伊國ファシスト大評議會の議決に依れば

一、ドイツのチェツコ併合に對しては「ローマ、ベルリン樞軸に依る政策を支持する

二、英佛とポルシェヴィズムとの共同戰線に對しては飽く迄抗爭する

反獨宣言には不贊成

波蘭が英國に通告

【ロンドン二十二日發同盟】英國政府はドイツの中歐制覇に對抗して英、佛、ソ聯、ポーランド四國の反獨共同宣言を企圖し東ベルリン駐在の英國大使ヘンダーソンを通じ獨逸にも申入れたが、ポーランド外相ベック大佐は二十一日夜ワルシャワよりベルリンに急行、ヒットラー總統、リッベントロップ外相と會見、約二時間に亙りドイツの新興國に對する英佛共同宣言に關する英國の提案には賛成し難い旨通告した

反獨宣言には不贊成

波蘭が英國に通告

【ロンドン二十二日發同盟】英國政府はドイツの中歐制覇に對抗して英、佛、ソ聯、ポーランド四國の反獨共同宣言を企圖し東ベルリン駐在の英國大使ヘンダーソンを通じ獨逸にも申入れたが、ポーランド外相ベック大佐は二十一日夜ワルシャワよりベルリンに急行、ヒットラー總統、リッベントロップ外相と會見、約二時間に亙りドイツの新興國に對する英佛共同宣言に關する英國の提案には賛成し難い旨通告した

エストニアの 外相が伯林へ

【ベルリン二十二日發同盟】エストニア外相セッター氏は二十二日夜ワルシャワよりベルリンに到着した、メーメル問題、ダンチヒ

エストニアの 外相が伯林へ

【ベルリン二十二日發同盟】エストニア外相セッター氏は二十二日夜ワルシャワよりベルリンに到着した、メーメル問題、ダンチヒ

英佛外相が會見

【ロンドン二十二日發同盟】ルプラン佛大使は二十二日夜ロンドン着直後ハリファックス英外相と會見、約一時間に亙り

英佛外相が會見

【ロンドン二十二日發同盟】ルプラン佛大使は二十二日夜ロンドン着直後ハリファックス英外相と會見、約一時間に亙り

貴族院本會議

【東京二十二日發同盟】二十二日の貴族院本會議は午前十時十七分開會、直ちに日程に入り

一、大日本航空株式會社法案
一、同特別會計法案

（政府提出、衆議院修正）

の二案を一括上程し右委員長報告より打つて一丸とし右修正通り可決、次いで

一、國際情勢に關する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

貴族院本會議

【東京二十二日發同盟】二十二日の貴族院本會議は午前十時十七分開會、直ちに日程に入り

一、大日本航空株式會社法案
一、同特別會計法案

（政府提出、衆議院修正）

の二案を一括上程し右委員長報告より打つて一丸とし右修正通り可決、次いで

一、國際情勢に關する件
一、財政に關する件
一、國防に關する件
一、產業に關する件
一、教育に關する件

の五項目に亙つて質問があつた後、

一、昭和十三年度第一豫備金支出の件外承諾を求むる件

を上程、これを可決して同四時二十五分散會

陸軍百九名 豫備役編入

【東京二十二日發同盟】陸軍では中將六名、少將廿二名、大佐二十六名、中佐八名、少佐十二名、大尉二十四名合計百九名に對し豫備役に編入することとなり二十二日附發令されることになつた

陸軍百九名 豫備役編入

【東京二十二日發同盟】陸軍では中將六名、少將廿二名、大佐二十六名、中佐八名、少佐十二名、大尉二十四名合計百九名に對し豫備役に編入することとなり二十二日附發令されることになつた

温州を爆撃

海の荒鷲が活躍

【上海二十二日發同盟】艦隊報道部發表、二十日浙東航空隊の活

温州を爆撃

海の荒鷲が活躍

【上海二十二日發同盟】艦隊報道部發表、二十日浙東航空隊の活

チエツコ併合の 承認を拒否

駐米獨逸大使に手交

【ワシントン二十二日發同盟】ウエルズ米國務長官代理は二十日午後駐米ドイツ大使ハインストゼン氏に對しドイツのチエツコ併合通牒に對する回答を手交した、米政府の回答內容は二十二日發表されたが、その要旨は左の如く傳へられてゐるものと解してよいか

チエツコ併合の 承認を拒否

駐米獨逸大使に手交

【ワシントン二十二日發同盟】ウエルズ米國務長官代理は二十日午後駐米ドイツ大使ハインストゼン氏に對しドイツのチエツコ併合通牒に對する回答を手交した、米政府の回答內容は二十二日發表されたが、その要旨は左の如く傳へられてゐるものと解してよいか

遲延利息論

岩田新著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 一八〇 定價 一圓七錢 資料 二四錢

遲延利息論

岩田新著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 一八〇 定價 一圓七錢 資料 二四錢

新國體論

永井亨著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五八九 定價 五圓 資料 四七錢

新國體論

永井亨著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五八九 定價 五圓 資料 四七錢

刑法研究（第七卷）

東京帝大名譽教授 法博 牧野英一著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五七五 定價 四圓五十錢 資料 四七錢

刑法研究（第七卷）

東京帝大名譽教授 法博 牧野英一著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五七五 定價 四圓五十錢 資料 四七錢

米國稅制發達史

野津高次郎著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 六八〇 定價 五圓 資料 四七錢

米國稅制發達史

野津高次郎著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 六八〇 定價 五圓 資料 四七錢

蠶絲業經濟の研究

經濟學士 平岡謹之助著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 八八八 定價 六圓五十錢 資料 六十錢

蠶絲業經濟の研究

經濟學士 平岡謹之助著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 八八八 定價 六圓五十錢 資料 六十錢

國民經濟學概論

中央大學教授 法博 松浦一要著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四四〇 定價 二圓五十錢 資料 三四錢

國民經濟學概論

中央大學教授 法博 松浦一要著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四四〇 定價 二圓五十錢 資料 三四錢

刑法研究（第一卷）

東京帝大名譽教授 法博 牧野英一著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四八〇 定價 四圓 資料 四七錢

刑法研究（第一卷）

東京帝大名譽教授 法博 牧野英一著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四八〇 定價 四圓 資料 四七錢

遲延利息論

岩田新著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 一八〇 定價 一圓七錢 資料 二四錢

遲延利息論

岩田新著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 一八〇 定價 一圓七錢 資料 二四錢

新國體論

永井亨著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五八九 定價 五圓 資料 四七錢

新國體論

永井亨著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 五八九 定價 五圓 資料 四七錢

米國稅制發達史

野津高次郎著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 六八〇 定價 五圓 資料 四七錢

米國稅制發達史

野津高次郎著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 六八〇 定價 五圓 資料 四七錢

蠶絲業經濟の研究

經濟學士 平岡謹之助著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 八八八 定價 六圓五十錢 資料 六十錢

蠶絲業經濟の研究

經濟學士 平岡謹之助著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 八八八 定價 六圓五十錢 資料 六十錢

國民經濟學概論

中央大學教授 法博 松浦一要著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四四〇 定價 二圓五十錢 資料 三四錢

國民經濟學概論

中央大學教授 法博 松浦一要著

新刊 帝國機械振興會會長 法博

總頁數 四四〇 定價 二圓五十錢 資料 三四錢

東京 神田 有斐閣 賣捌所 東京市神田區錦町三丁目 株式會社 有斐閣 發行所 東京市神田區錦町三丁目 杉浦榮三郎 發行者 東京市神田區錦町三丁目 株式會社 有斐閣 印刷所 東京市神田區錦町三丁目 杉浦榮三郎 印刷

期待さる廢油田再生坑道掘り

六百萬圓の助成金を計上して 政府は試掘奬勵に大童

【東京二十二日發本社特電】戰時下の無の一擧と云はれる石油採掘奬勵に對しては政府も時局柄特に留意してその增産に拍車をかけてゐるが、商工省では今回油田の試掘奬勵のため六百萬圓の助成金を支出することに決定、卷と國を擧げて石油增産運動に一大進展せんとすることとなつた、石油の試掘助成金は昭和十二年から行はれて居り當時は十二萬圓であつたが、十三年度から二百萬圓七十萬圓に飛躍をとげその試掘の所要經費の三分の二を助成する事になつた、十四年度こそ本格的な石油增產助成の声が隱れた期待であつたが、十三年度は更に一段と拍車をかけられた大掛りなものが多く中でも代表的なものは樺太に於ける廢油田の再生坑掘りである、昨秋以來すでに新潟縣柏崎、東山（長岡附近）及び秋田縣仁井の二個所に十二万七千円の經費を投じてボーリング試掘を行ひ油層を探知、地質の調査を進め愈々昨年度から東山に於て坑口徑二百メートル、深度二百メートルの坑道掘りに着手することとなつた、この貴重な坑道掘りは總經二十六万四千円を投じてビルディング建築の基礎一軒の方法を採用し坑口徑二百メートル、深度二百メートルの坑道を掘り進み坑口徑二メートル、深度二百メートルの坑道を掘り進み坑口徑二メートル、深度二百メートルの坑道を掘り進み坑口徑二

（第三種郵便物認可）　昭和十四年三月二十三日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万四千四十四號　A（三）

一つの季節

——佐前氏に贈れる——

林　修二

その日——夜の御風が過ぎる時
ゆるい月光の堆積の中で
昔の日々をなつかしみ
夜もすがら——
目覚は歌いつづけた
ディナスの山が溶けて
彩った花床で白い蝶は舞って
鶯た車窗を脱ぎ捨てよ
新しい微笑とミギの花の街
噴水の踊でメルンが始まった

深く日本を理解してゐるか、判つたものではない。同時にまた、フアレルだつて何時まで親日家でゐられるかも判つたものではない。それは丁度、曾てはソ聯の心臓者であり「日ソ若し戦はばソ聯のために日本と戦ふ」とまで豪つたと云ふアンドレ・ヂイドが、其後ソ聯の実情に失望して、最近では親日に傾きつつあると云ふのと同曲である。

わが〳〵はフアレルの態度を想

かとか、実に馬鹿げた質にもつかぬ質問を浴する外国人が今日でも多数に存する事を思へば、日本の真の心や姿を外人に正しく理解させることは、決して生やさしい事ではないのである。感性は強に不可能だと断じても差支ないかも知れない。だしかキップリングの言葉だつたと思ふが、まことに「東は東、西は西」である。

先般来朝した仏の哲学者ベルレルは国賓パリ文化会の通信（二

『キモノ』の著者

——外人と日本——

（下）

宮崎震作

よく云はわることであるが、一般われ〳〵日本人は餘り正直で戦略すぎるのではないかと思ふ。この事はイタリーのエチオピア侵略の時の実例と、現今の実例とを考へれば直ぐ判ることである。正直で聡明なことは美徳には違ひないが、国際関係にまでまで餘り正直に突進したり怒つたりして見せるのは愚である。例のスイス駐在仏国公使の際、日本重は断然に調査をしたと云ひながら、すべき点は主張し、断乎として抗議すべきは断固として抗議すべきである。所が誠の露骨か知らないが、後で小学生に「御免なさいね」と手紙を書かしてアメリカに送つたことが新聞に出てゐたが、これなどは餘計な敗北感である。

既に敗るが、僕はバーナード・アレンの「トウ邑」を読んでサトウが彼の二友人に送つたと云ふ夫の手紙の二節に及んだ時に、サトウをアーノロサやヘルンやモラエス等と同じく東洋物の心酔者だとばかり、敗北に思ひこんでゐた僕は少からず意外の念にうたれた。

「僕は横浜から発送された陶器や時計の種々雑多な荷物の着くを所望するとともにふベロス大理石彫のタナグラの小立像か首をたつた一個手に入れたい……」

東洋生活二十年にも亘り、曾ねく日本各地を旅行して我国情に精通し、我国固有の神道まで研究して行つたアーネスト・サトウにして、既にこれである。云ふ迄もなく彼は軍に美術品の嗜好上のことで

海外文藝の流れ

ジョイ・ダヴィソドマン

鵜の眼鷹の眼

スティヴン・ダインセント・ベネットが編輯し、エール大学出版部から出版された新詩人エール叢書の第七番目のジョイ・ダヴィソドマンの詩集「同志への手紙」という詩集に関し、ナショナル・

ある。

佐田良雄氏の「欧米雑記」（台湾時報所載）によると、世界地図帖に日本を見出し得なかつたヴリソナス教授があるといふ。その外日本に汽車やラヂオがあるかどうか、日本に行つても牛乳が飲めるかと、日本に行つても牛乳が飲める

月二十八日発）によると、イタリーにスキスに盛んに講演旅行をやつて、終始日本のために宣伝運動を続けてゐると云ふ。われ〳〵はフアレルの努力を大いにとするものである。或は日本刀の一口も贈りたくなるであらう。

フランシス・ステーグミュラーの「ローベルとマダム・ボヴアリー」「一重の地獄」は一月十七日ヴアイキング・プレスから出版された。この著者はこれまでもパイロン・スティールの筆名で多くの著書を持つてゐる。それらの書物のうちに「陰なきベン・ジョンソン」「ジヤバ・ジヤバ」がある。

婚許きし悲

特輯

學窓を巣立つ若き女性に贈る五つの言葉

世界を見よ・加田哲二
最初の問ひ・宮本百合子
夢を失ふな・河上徹太郎
現實を強く・竹田菊
讀書を・神近市子

双葉山さんと私の結婚

東京女子大學長　安井哲子

女史の客間に訊く

新税・増税と家計

美容第一課……ジェン・牛山

四月の献立

徳貝季子

北海道の旅

河上徹太郎—井伏鱒二
原節子—森赫子
式場隆三郎—竹内時男

往信復信

婚約時代の道徳

婚許の新しい意義

青空の煙かなしも……伊東澄子
白衣の待機……佐野ともゑ
吹雪の夜の決意……丸目党爾
小さな琴……歴山十馬

喜びはうつり易く、憂悩もまた永遠のものではない。人生の苦と楽とをまぜ合せた味ひこそ、人生の真の味ひである。我が国の文化は、何時の時代に於ても、支那の影響を受けないものはない。支那の文化を如何に摂取し、如何に消化したかに、日本文化の特色があると云ふ。

許嫁から許婚へ——「時代の推移」を持つ心を変えなければ如何に娘は何に嫁ぐべきか？

奥なめお

阿部静枝

帯刀貞代

事変下の結婚事情に於ける姉妹の姿を見ず。

本誌記者

名訓を求めた子女の女史の客間に応じ、時局の問答者との問答記者

本誌記者

氏家壽子

石川達三

花のない季節

島木健作

人間の復活

丹羽文雄

青い苔

武田麟太郎

蠟燭

野上彌生子

美しき世界

林芙美子

短篇 春のみづうみ

私の結核闘病記

戦病療養もまた

なり

笠井太一

去りゆく村娘

東京文理大教授　野尻重雄

妻の勝利

中川善之助

私の傑作

雪洋少女の日のクション番

妻妾の初戀人

清水崎神

李鼻涕

列仙傳 (21)

李鼻涕　西川滿

李鼻涕。宋の紹興の初め頃、福州に一人の道者がゐた。人が薬を求めると、即座に調合をさせ、丸めて與へた。眠すると病ひが、たちどころに治るので、自ら李鼻涕と號してゐた。時に門前を通ると見て、これを招いた。ところが生憎薬がないので窮ると、鼻涕は笑つて、「いやその床の上にある金銭で結構」と云ひ、それに白紙をかぶせた。するとしばらくして香ぶされ、そもいはれぬ美香となつた。さてある日、鼻涕に別れを告げ、「二十年後の某月某日福州でお目にかゝりませう」と言つて去つたが、その期日には、生憎くも鼻涕は福州に居てにはかに死んでしまつた。（禁轉載）

雑誌紹介

▲文藝汎論（四月號）　ねばたま（柴田錬三郎）或る日（指木宋吉）　練百車（長谷川伸）　（十和田湖の小説四篇）　芥川賞の西條（阪本越郎）　夏目漱石全集批評（保田與重郎）　及善悪観音（谷崎潤一郎）　中野秀人、橋本文雄その他詩数（〇・四〇）東京市外世田谷区太子堂三ノ九二八文藝汎論社

賣發日本

公人春

「許婚」特輯

大評判です　すぐお求めください！　價定 六〇錢

秘められた野心家

東京驛前丸ビル　中央公論社發行　振替東京三四

禮子の結婚披露に……小宮豊隆
海外だより—第一信……野上彌生子
源氏物語の中の二三の歌に就て……谷川徹三
事変の現段階と見透し……清澤洌
國民再組織と婦人の問題……佐藤俊子
大阪行その他（僕の頁）……嶋中雄作
近代音樂……史話：中根宏　にて：三好達治
小さき島……富澤有爲男

婦人の頁

娘の相談

無気力な夫とその妻
結婚難と職業
娘への手紙

嶋中雄作

傑作級方　房州行……豊田正子

春の髪

春の表情

往信復信

婚約時代の道徳

婚許の新しい意義

獨身婦人に與ふる書

武者小路實篤

思ひ出の人々

（私の歩んで來た道）

二荊花園

成長した右京三兄弟

里見弴

修道女の手紙

★天使國を訪ふ　スール・マーヤ・アンジェラ　三上悠紀子
★獄舎の女となりて　聖三一修女
★沈默　ベルナール・ド・メルノン　岸田國士

創作女性評論　南京

娘の相談

富澤有爲男

花のない季節

石川達三

人間の復活

島木健作

青い苔

丹羽文雄

蠟燭

武田麟太郎

美しき世界

野上彌生子

短篇 春のみづうみ

林芙美子

私の結核闘病記

永井文子

戦病療養もまた

なり

笠井太一

去りゆく村娘

東京文理大教授　野尻重雄

妻の勝利

中川善之助

私の傑作

雪洋少女の日のクション番

妻妾の初戀人

清水崎神

法存保の用愛と物織毛
衞芳内竹…（巻の姑）らか屋部居隠

ムーレクトーレ

青春を讃えよ

明るい春の陽を享けて貴女の若さを誇りませう。それには完全な栄養クリームで清らかな栄養をタップリ與へお肌の生活力を活潑にすることです。

肌若な潑活

南風の歌 (67)

(發声映画)

加藤武雄作
富田千秋畫

花信(十)

「ねえ先生、何も知らないんですね」

「何か――変つた事があつたんですか？」

「幸ちやんは、あの指環の表にはもうゐないんですよ」

「然うかも知れないのか」

「先生の方へは本当に何も消息がなかつたんですか？」

「絶えめのうちは一週間に一度くらゐつつ手紙が来れた。で、僕も返事を出すのはあの人の為めにかが願を出すのはあの人の為めにならないと思つたもんですから。ところが――」

英吉は、一昨夜はからずも幸子に行つた事の一伍一什を聞つた。この報告はひどく英吉を驚かした。

「なんだ、すが、僕もうつとあの人に会はうにゐたんです。僕なんかが願を出すのはあの人の為めにならないと思つたもんですから。ところが――」

英吉は、一昨夜はからずも幸子に於て、朱哲亜の一部が我が陸軍に對し不法射撃を行ひ、日支軍は衝突するに至つた事實を聞いた。

昭和十二年七月七日蘆溝橋附近に於て、朱哲亜の一部が我が陸軍に對し不法射撃を行ひ、日支軍は衝突するに至つた事實を聞いた。

英吉は、漸くにそれを事実として信じられねらしい様子だつた。

「どう間違へたつて、そんな――男と一緒に住合入りをするやうな女にあの人がなるとは思へないから、そこを出してしまつたといふのはわるいけれどネ」

「僕も然のやうな気がしてならないんです。まるで別の人間が幸子つていふ人の形になつて現れて来たらやないか――そんな気がするんです」

「どうしたといふんだらうな？」

「まるきり解らないんです。何か事情があるに違ひないんですが唯、私はもう駄目な人間だといふだけで、その事情を話しては呉れないんです」

「フーム――」

「石橋先生、あんたが行つて訊いて見たら――あんたに話すかも知れないから行つて下さい」

「何処に居るんです？」

「新宿のアパートなんです」

「おや行かう。君も一緒に行つて呉れ給へ」

「僕？　止めます」

「どうしてだね？」

「どうしてつて事はないけど、張合ひだけが無つた方がいい。僕は回顧録ですからネ。すぐに帰宅しちまひますから――」

「さうか、ぢやとにかく僕だけで行つて見よう」

英吉は然三の頼りを待ちわびてゐるらしい幸子の為めにわざ出て来た然三の、幸子に對する淡い感情を知り得ずにはゐられなかつた。自分の代りに幸子を見まもつてやつてくれと長々と然三に頼まれながら、その頼みを無にして幸子から遠退いてゐた自分は確かに無責任だと云へる。しかし自分が幸子から遠退いたのは自分自身の気持がぬきさしのならぬところへ落ち込んでひさうになるのが幸子に悪いからだ。自分といふものが幸子に悪もない事を知つてゐるので、若しか自分が幸子を愛慾といふやうな大それた望みが抑へきれないものになつては悪いといふその用心からであつた。つまり然三が幸子と連絡らうとしたその間に横田から、自分が幸子と連絡してゐたのだ。

それほどに思つてゐる幸子なのだ。だのに幸子のあの変化は何事だらう！――英吉は血のにじむほど唇を噛んだ。

支那事變經過の概要
★…陸軍省情報部

(一)

第二十九軍膺懲戰と不擴大方針一擲の經緯

昭和十二年七月七日蘆溝橋附近に於て、朱哲亜の一部が我が陸軍に對し不法射撃を行ひ、日支軍は衝突するに至つた事實は、然三の語りを待ちわびてゐるらしい幸子の為めにわざ出て来た然三の、幸子に對する淡い感情を知り得ずにはゐられなかつた。自分の代りに幸子を見まもつてやつてくれと長々と然三に頼まれながら、その頼みを無にして幸子から遠退いてゐた自分は確かに無責任だと云へる。しかし自分が幸子から遠退いたのは自分自身の気持がぬきさしのならぬところへ落ち込んでひさうになるのが幸子に悪いからだ。自分といふものが幸子に悪もない事を知つてゐるので、若しか自分が幸子を愛慾といふやうな大それた望みが抑へきれないものになつては悪いといふその用心からであつた。つまり然三が幸子と連絡らうとしたその間に横田から、自分が幸子と連絡してゐたのだ。

それほどに思つてゐる幸子なのだ。だのに幸子のあの変化は何事だらう！――英吉は血のにじむほど唇を噛んだ。

ラヂオ

【一二・〇〇】國の祭日、ラヂオ體操、朝の音樂(レコード)【一二・一〇】臨時ニュース【一二・一五】正午の時報(東京)、内閣定期報告、大和丸遭難人捜索打切及被救列車時刻のおしらせ…鐵道省運輸局發表(公示)、東亜生物研究所(大倉)、后報(各局)、午後の放送番組發表(大倉局)【一二・一〇】管絃樂曲 胡雪の夜歌…胡利あけみ、さらば故郷…徳山璉、浅草雀情…高田雄一、東京の出船…林伸雄、ニッポンよからよ…市丸、徳山璉、戦線はやり唄…鈴木正夫、東京さくら…市丸、懐だより…加美 可奈子、米山博夫【一二・四〇】ニュース【一二・一〇】臨時ニュース【一二・四〇】ラヂオ體操【一三・〇〇】ニュース【一三・一〇】臨時ニュース【一三・四〇】ニュース【一四・〇〇】入學試験合格者發表(各局)【一四・一〇】ニュース【一四・二〇】ニュース【一四・三〇】ニュース【一四・四〇】ニュース【一四・五〇】ニュース【一五・〇〇】ニュース【一五・一〇】ニュース【一五・二〇】ニュース【一五・三〇】ニュース【一五・四〇】ニュース【一五・五〇】ニュース【一六・〇〇】ニュース【一六・一〇】ニュース【一六・二〇】ニュース【一六・三〇】ニュース【一六・四〇】ニュース【一六・五〇】ニュース【一七・〇〇】ニュース【一七・一〇】ニュース【一七・二〇】ニュース【一七・三〇】ニュース【一七・四〇】ニュース【一七・五〇】ニュース【一八・〇〇】ニュース【一八・一〇】ニュース【一八・二〇】ニュース【一八・三〇】ニュース【一八・四〇】ニュース【一八・五〇】ニュース【一九・〇〇】ニュース【一九・一〇】ニュース【一九・二〇】ニュース【一九・三〇】ニュース【一九・四〇】ニュース【一九・五〇】ニュース【二〇・〇〇】ニュース【二〇・一〇】ニュース【二〇・二〇】ニュース【二〇・三〇】ニュース【二〇・四〇】ニュース【二〇・五〇】ニュース【二一・〇〇】ニュース【二一・一〇】ニュース【二一・二〇】ニュース【二一・三〇】ニュース【二一・四〇】ニュース【二一・五〇】ニュース【二二・〇〇】ニュース【二二・一〇】ニュース【二二・二〇】ニュース【二二・三〇】ニュース【二二・四〇】ニュース【二二・五〇】ニュース【二三・〇〇】ニュース【二三・一〇】ニュース【二三・二〇】ニュース【二三・三〇】ニュース【二三・四〇】ニュース【二三・五〇】ニュース【二四・〇〇】ニュース【二四・一〇】ニュース【二四・二〇】ニュース【二四・三〇】ニュース【二四・四〇】ニュース【二四・五〇】ニュース【二五・〇〇】ニュース【二五・一〇】ニュース【二五・二〇】ニュース【二五・三〇】ニュース【二五・四〇】ニュース【二五・五〇】ニュース【二六・〇〇】ニュース【二六・一〇】ニュース【二六・二〇】ニュース【二六・三〇】ニュース【二六・四〇】ニュース【二六・五〇】ニュース【二七・〇〇】ニュース【二七・一〇】ニュース【二七・二〇】ニュース【二七・三〇】ニュース【二七・四〇】ニュース【二七・五〇】ニュース【二八・〇〇】ニュース【二八・一〇】ニュース【二八・二〇】ニュース【二八・三〇】ニュース【二八・四〇】ニュース【二八・五〇】ニュース【二九・〇〇】ニュース【二九・一〇】ニュース【二九・二〇】ニュース【二九・三〇】ニュース【二九・四〇】ニュース【二九・五〇】ニュース【三〇・〇〇】ニュース【三〇・一〇】ニュース【三〇・二〇】ニュース【三〇・三〇】ニュース【三〇・四〇】ニュース【三〇・五〇】ニュース【三一・〇〇】ニュース【三一・一〇】ニュース【三一・二〇】ニュース【三一・三〇】ニュース【三一・四〇】ニュース【三一・五〇】ニュース【三二・〇〇】ニュース【三二・一〇】ニュース【三二・二〇】ニュース【三二・三〇】ニュース【三二・四〇】ニュース【三二・五〇】ニュース【三三・〇〇】ニュース【三三・一〇】ニュース【三三・二〇】ニュース【三三・三〇】ニュース【三三・四〇】ニュース【三三・五〇】ニュース【三四・〇〇】ニュース【三四・一〇】ニュース【三四・二〇】ニュース【三四・三〇】ニュース【三四・四〇】ニュース【三四・五〇】ニュース【三五・〇〇】ニュース【三五・一〇】ニュース【三五・二〇】ニュース【三五・三〇】ニュース【三五・四〇】ニュース【三五・五〇】ニュース【三六・〇〇】ニュース【三六・一〇】ニュース【三六・二〇】ニュース【三六・三〇】ニュース【三六・四〇】ニュース【三六・五〇】ニュース【三七・〇〇】ニュース【三七・一〇】ニュース【三七・二〇】ニュース【三七・三〇】ニュース【三七・四〇】ニュース【三七・五〇】ニュース【三八・〇〇】ニュース【三八・一〇】ニュース【三八・二〇】ニュース【三八・三〇】ニュース【三八・四〇】ニュース【三八・五〇】ニュース【三九・〇〇】ニュース【三九・一〇】ニュース【三九・二〇】ニュース【三九・三〇】ニュース【三九・四〇】ニュース【三九・五〇】ニュース【四〇・〇〇】ニュース【四〇・一〇】ニュース【四〇・二〇】ニュース【四〇・三〇】ニュース【四〇・四〇】ニュース【四〇・五〇】ニュース【四一・〇〇】ニュース【四一・一〇】ニュース【四一・二〇】ニュース【四一・三〇】ニュース【四一・四〇】ニュース【四一・五〇】ニュース【四二・〇〇】ニュース【四二・一〇】ニュース【四二・二〇】ニュース【四二・三〇】ニュース【四二・四〇】ニュース【四二・五〇】ニュース【四三・〇〇】ニュース【四三・一〇】ニュース【四三・二〇】ニュース【四三・三〇】ニュース【四三・四〇】ニュース【四三・五〇】ニュース【四四・〇〇】ニュース【四四・一〇】ニュース【四四・二〇】ニュース【四四・三〇】ニュース【四四・四〇】ニュース【四四・五〇】ニュース【四五・〇〇】ニュース【四五・一〇】ニュース【四五・二〇】ニュース【四五・三〇】ニュース【四五・四〇】ニュース【四五・五〇】ニュース【四六・〇〇】ニュース【四六・一〇】ニュース【四六・二〇】ニュース【四六・三〇】ニュース【四六・四〇】ニュース【四六・五〇】ニュース【四七・〇〇】ニュース【四七・一〇】ニュース【四七・二〇】ニュース【四七・三〇】ニュース【四七・四〇】ニュース【四七・五〇】ニュース【四八・〇〇】ニュース【四八・一〇】ニュース【四八・二〇】ニュース【四八・三〇】ニュース【四八・四〇】ニュース【四八・五〇】ニュース【四九・〇〇】ニュース【四九・一〇】ニュース【四九・二〇】ニュース【四九・三〇】ニュース【四九・四〇】ニュース【四九・五〇】ニュース【五〇・〇〇】ニュース【五〇・一〇】ニュース【五〇・二〇】ニュース【五〇・三〇】ニュース【五〇・四〇】ニュース【五〇・五〇】ニュース【五一・〇〇】ニュース【五一・一〇】ニュース【五一・二〇】ニュース【五一・三〇】ニュース【五一・四〇】ニュース【五一・五〇】ニュース【五二・〇〇】ニュース【五二・一〇】ニュース【五二・二〇】ニュース【五二・三〇】ニュース【五二・四〇】ニュース【五二・五〇】ニュース【五三・〇〇】ニュース【五三・一〇】ニュース【五三・二〇】ニュース【五三・三〇】ニュース【五三・四〇】ニュース【五三・五〇】ニュース【五四・〇〇】ニュース【五四・一〇】ニュース【五四・二〇】ニュース【五四・三〇】ニュース【五四・四〇】ニュース【五四・五〇】ニュース【五五・〇〇】ニュース【五五・一〇】ニュース【五五・二〇】ニュース【五五・三〇】ニュース【五五・四〇】ニュース【五五・五〇】ニュース【五六・〇〇】ニュース【五六・一〇】ニュース【五六・二〇】ニュース【五六・三〇】ニュース【五六・四〇】ニュース【五六・五〇】ニュース【五七・〇〇】ニュース【五七・一〇】ニュース【五七・二〇】ニュース【五七・三〇】ニュース【五七・四〇】ニュース【五七・五〇】ニュース【五八・〇〇】ニュース【五八・一〇】ニュース【五八・二〇】ニュース【五八・三〇】ニュース【五八・四〇】ニュース【五八・五〇】ニュース【五九・〇〇】ニュース【五九・一〇】ニュース【五九・二〇】ニュース【五九・三〇】ニュース【五九・四〇】ニュース【五九・五〇】ニュース【六〇・〇〇】ニュース【六〇・一〇】ニュース【六〇・二〇】ニュース【六〇・三〇】ニュース【六〇・四〇】ニュース【六〇・五〇】ニュース【六一・〇〇】ニュース【六一・一〇】ニュース【六一・二〇】ニュース【六一・三〇】ニュース【六一・四〇】ニュース【六一・五〇】ニュース【六二・〇〇】ニュース【六二・一〇】ニュース【六二・二〇】ニュース【六二・三〇】ニュース【六二・四〇】ニュース【六二・五〇】ニュース【六三・〇〇】ニュース【六三・一〇】ニュース【六三・二〇】ニュース【六三・三〇】ニュース【六三・四〇】ニュース【六三・五〇】ニュース【六四・〇〇】ニュース【六四・一〇】ニュース【六四・二〇】ニュース【六四・三〇】ニュース【六四・四〇】ニュース【六四・五〇】ニュース【六五・〇〇】ニュース【六五・一〇】ニュース【六五・二〇】ニュース【六五・三〇】ニュース【六五・四〇】ニュース【六五・五〇】ニュース【六六・〇〇】ニュース【六六・一〇】ニュース【六六・二〇】ニュース【六六・三〇】ニュース【六六・四〇】ニュース【六六・五〇】ニュース【六七・〇〇】ニュース【六七・一〇】ニュース【六七・二〇】ニュース【六七・三〇】ニュース【六七・四〇】ニュース【六七・五〇】ニュース【六八・〇〇】ニュース【六八・一〇】ニュース【六八・二〇】ニュース【六八・三〇】ニュース【六八・四〇】ニュース【六八・五〇】ニュース【六九・〇〇】ニュース【六九・一〇】ニュース【六九・二〇】ニュース【六九・三〇】ニュース【六九・四〇】ニュース【六九・五〇】ニュース【七〇・〇〇】ニュース【七〇・一〇】ニュース【七〇・二〇】ニュース【七〇・三〇】ニュース【七〇・四〇】ニュース【七〇・五〇】ニュース【七一・〇〇】ニュース【七一・一〇】ニュース【七一・二〇】ニュース【七一・三〇】ニュース【七一・四〇】ニュース【七一・五〇】ニュース【七二・〇〇】ニュース【七二・一〇】ニュース【七二・二〇】ニュース【七二・三〇】ニュース【七二・四〇】ニュース【七二・五〇】ニュース【七三・〇〇】ニュース【七三・一〇】ニュース【七三・二〇】ニュース【七三・三〇】ニュース【七三・四〇】ニュース【七三・五〇】ニュース【七四・〇〇】ニュース【七四・一〇】ニュース【七四・二〇】ニュース【七四・三〇】ニュース【七四・四〇】ニュース【七四・五〇】ニュース【七五・〇〇】ニュース【七五・一〇】ニュース【七五・二〇】ニュース【七五・三〇】ニュース【七五・四〇】ニュース【七五・五〇】ニュース【七六・〇〇】ニュース【七六・一〇】ニュース【七六・二〇】ニュース【七六・三〇】ニュース【七六・四〇】ニュース【七六・五〇】ニュース【七七・〇〇】ニュース【七七・一〇】ニュース【七七・二〇】ニュース【七七・三〇】ニュース【七七・四〇】ニュース【七七・五〇】ニュース【七八・〇〇】ニュース【七八・一〇】ニュース【七八・二〇】ニュース【七八・三〇】ニュース【七八・四〇】ニュース【七八・五〇】ニュース【七九・〇〇】ニュース【七九・一〇】ニュース【七九・二〇】ニュース【七九・三〇】ニュース【七九・四〇】ニュース【七九・五〇】ニュース【八〇・〇〇】ニュース【八〇・一〇】ニュース【八〇・二〇】ニュース【八〇・三〇】ニュース【八〇・四〇】ニュース【八〇・五〇】ニュース【八一・〇〇】ニュース【八一・一〇】ニュース【八一・二〇】ニュース【八一・三〇】ニュース【八一・四〇】ニュース【八一・五〇】ニュース【八二・〇〇】ニュース【八二・一〇】ニュース【八二・二〇】ニュース【八二・三〇】ニュース【八二・四〇】ニュース【八二・五〇】ニュース【八三・〇〇】ニュース【八三・一〇】ニュース【八三・二〇】ニュース【八三・三〇】ニュース【八三・四〇】ニュース【八三・五〇】ニュース【八四・〇〇】ニュース【八四・一〇】ニュース【八四・二〇】ニュース【八四・三〇】ニュース【八四・四〇】ニュース【八四・五〇】ニュース【八五・〇〇】ニュース【八五・一〇】ニュース【八五・二〇】ニュース【八五・三〇】ニュース【八五・四〇】ニュース【八五・五〇】ニュース【八六・〇〇】ニュース【八六・一〇】ニュース【八六・二〇】ニュース【八六・三〇】ニュース【八六・四〇】ニュース【八六・五〇】ニュース【八七・〇〇】ニュース【八七・一〇】ニュース【八七・二〇】ニュース【八七・三〇】ニュース【八七・四〇】ニュース【八七・五〇】ニュース【八八・〇〇】ニュース【八八・一〇】ニュース【八八・二〇】ニュース【八八・三〇】ニュース【八八・四〇】ニュース【八八・五〇】ニュース【八九・〇〇】ニュース【八九・一〇】ニュース【八九・二〇】ニュース【八九・三〇】ニュース【八九・四〇】ニュース【八九・五〇】ニュース【九〇・〇〇】ニュース【九〇・一〇】ニュース【九〇・二〇】ニュース【九〇・三〇】ニュース【九〇・四〇】ニュース【九〇・五〇】ニュース【九一・〇〇】ニュース【九一・一〇】ニュース【九一・二〇】ニュース【九一・三〇】ニュース【九一・四〇】ニュース【九一・五〇】ニュース【九二・〇〇】ニュース【九二・一〇】ニュース【九二・二〇】ニュース【九二・三〇】ニュース【九二・四〇】ニュース【九二・五〇】ニュース【九三・〇〇】ニュース【九三・一〇】ニュース【九三・二〇】ニュース【九三・三〇】ニュース【九三・四〇】ニュース【九三・五〇】ニュース【九四・〇〇】ニュース【九四・一〇】ニュース【九四・二〇】ニュース【九四・三〇】ニュース【九四・四〇】ニュース【九四・五〇】ニュース【九五・〇〇】ニュース【九五・一〇】ニュース【九五・二〇】ニュース【九五・三〇】ニュース【九五・四〇】ニュース【九五・五〇】ニュース【九六・〇〇】ニュース【九六・一〇】ニュース【九六・二〇】ニュース【九六・三〇】ニュース【九六・四〇】ニュース【九六・五〇】ニュース【九七・〇〇】ニュース【九七・一〇】ニュース【九七・二〇】ニュース【九七・三〇】ニュース【九七・四〇】ニュース【九七・五〇】ニュース【九八・〇〇】ニュース【九八・一〇】ニュース【九八・二〇】ニュース【九八・三〇】ニュース【九八・四〇】ニュース【九八・五〇】ニュース【九九・〇〇】ニュース【九九・一〇】ニュース【九九・二〇】ニュース【九九・三〇】ニュース【九九・四〇】ニュース【九九・五〇】ニュース【一〇〇・〇〇】ニュース【一〇〇・一〇】ニュース【一〇〇・二〇】ニュース【一〇〇・三〇】ニュース【一〇〇・四〇】ニュース【一〇〇・五〇】ニュース【一〇一・〇〇】ニュース【一〇一・一〇】ニュース【一〇一・二〇】ニュース【一〇一・三〇】ニュース【一〇一・四〇】ニュース【一〇一・五〇】ニュース【一〇二・〇〇】ニュース【一〇二・一〇】ニュース【一〇二・二〇】ニュース【一〇二・三〇】ニュース【一〇二・四〇】ニュース【一〇二・五〇】ニュース【一〇三・〇〇】ニュース【一〇三・一〇】ニュース【一〇三・二〇】ニュース【一〇三・三〇】ニュース【一〇三・四〇】ニュース【一〇三・五〇】ニュース【一〇四・〇〇】ニュース【一〇四・一〇】ニュース【一〇四・二〇】ニュース【一〇四・三〇】ニュース【一〇四・四〇】ニュース【一〇四・五〇】ニュース【一〇五・〇〇】ニュース【一〇五・一〇】ニュース【一〇五・二〇】ニュース【一〇五・三〇】ニュース【一〇五・四〇】ニュース【一〇五・五〇】ニュース【一〇六・〇〇】ニュース【一〇六・一〇】ニュース【一〇六・二〇】ニュース【一〇六・三〇】ニュース【一〇六・四〇】ニュース【一〇六・五〇】ニュース【一〇七・〇〇】ニュース【一〇七・一〇】ニュース【一〇七・二〇】ニュース【一〇七・三〇】ニュース【一〇七・四〇】ニュース【一〇七・五〇】ニュース【一〇八・〇〇】ニュース【一〇八・一〇】ニュース【一〇八・二〇】ニュース【一〇八・三〇】ニュース【一〇八・四〇】ニュース【一〇八・五〇】ニュース【一〇九・〇〇】ニュース【一〇九・一〇】ニュース【一〇九・二〇】ニュース【一〇九・三〇】ニュース【一〇九・四〇】ニュース【一〇九・五〇】ニュース【一一〇・〇〇】ニュース【一一〇・一〇】ニュース【一一〇・二〇】ニュース【一一〇・三〇】ニュース【一一〇・四〇】ニュース【一一〇・五〇】ニュース【一一一・〇〇】ニュース【一一一・一〇】ニュース【一一一・二〇】ニュース【一一一・三〇】ニュース【一一一・四〇】ニュース【一一一・五〇】ニュース【一一二・〇〇】ニュース【一一二・一〇】ニュース【一一二・二〇】ニュース【一一二・三〇】ニュース【一一二・四〇】ニュース【一一二・五〇】ニュース【一一三・〇〇】ニュース【一一三・一〇】ニュース【一一三・二〇】ニュース【一一三・三〇】ニュース【一一三・四〇】ニュース【一一三・五〇】ニュース【一一四・〇〇】ニュース【一一四・一〇】ニュース【一一四・二〇】ニュース【一一四・三〇】ニュース【一一四・四〇】ニュース【一一四・五〇】ニュース【一一五・〇〇】ニュース【一一五・一〇】ニュース【一一五・二〇】ニュース【一一五・三〇】ニュース【一一五・四〇】ニュース【一一五・五〇】ニュース【一一六・〇〇】ニュース【一一六・一〇】ニュース【一一六・二〇】ニュース【一一六・三〇】ニュース【一一六・四〇】ニュース【一一六・五〇】ニュース【一一七・〇〇】ニュース【一一七・一〇】ニュース【一一七・二〇】ニュース【一一七・三〇】ニュース【一一七・四〇】ニュース【一一七・五〇】ニュース【一一八・〇〇】ニュース【一一八・一〇】ニュース【一一八・二〇】ニュース【一一八・三〇】ニュース【一一八・四〇】ニュース【一一八・五〇】ニュース【一一九・〇〇】ニュース【一一九・一〇】ニュース【一一九・二〇】ニュース【一一九・三〇】ニュース【一一九・四〇】ニュース【一一九・五〇】ニュース【一二〇・〇〇】ニュース【一二〇・一〇】ニュース【一二〇・二〇】ニュース【一二〇・三〇】ニュース【一二〇・四〇】ニュース【一二〇・五〇】ニュース【一二一・〇〇】ニュース【一二一・一〇】ニュース【一二一・二〇】ニュース【一二一・三〇】ニュース【一二一・四〇】ニュース【一二一・五〇】ニュース【一二二・〇〇】ニュース【一二二・一〇】ニュース【一二二・二〇】ニュース【一二二・三〇】ニュース【一二二・四〇】ニュース【一二二・五〇】ニュース【一二三・〇〇】ニュース【一二三・一〇】ニュース【一二三・二〇】ニュース【一二三・三〇】ニュース【一二三・四〇】ニュース【一二三・五〇】ニュース【一二四・〇〇】ニュース【一二四・一〇】ニュース【一二四・二〇】ニュース【一二四・三〇】ニュース【一二四・四〇】ニュース【一二四・五〇】ニュース【一二五・〇〇】ニュース【一二五・一〇】ニュース【一二五・二〇】ニュース【一二五・三〇】ニュース【一二五・四〇】ニュース【一二五・五〇】ニュース【一二六・〇〇】ニュース【一二六・一〇】ニュース【一二六・二〇】ニュース【一二六・三〇】ニュース【一二六・四〇】ニュース【一二六・五〇】ニュース【一二七・〇〇】ニュース【一二七・一〇】ニュース【一二七・二〇】ニュース【一二七・三〇】ニュース【一二七・四〇】ニュース【一二七・五〇】ニュース【一二八・〇〇】ニュース【一二八・一〇】ニュース【一二八・二〇】ニュース【一二八・三〇】ニュース【一二八・四〇】ニュース【一二八・五〇】ニュース【一二九・〇〇】ニュース【一二九・一〇】ニュース【一二九・二〇】ニュース【一二九・三〇】ニュース【一二九・四〇】ニュース【一二九・五〇】ニュース【一三〇・〇〇】ニュース【一三〇・一〇】ニュース【一三〇・二〇】ニュース【一三〇・三〇】ニュース【一三〇・四〇】ニュース【一三〇・五〇】ニュース【一三一・〇〇】ニュース【一三一・一〇】ニュース【一三一・二〇】ニュース【一三一・三〇】ニュース【一三一・四〇】ニュース【一三一・五〇】ニュース【一三二・〇〇】ニュース【一三二・一〇】ニュース【一三二・二〇】ニュース【一三二・三〇】ニュース【一三二・四〇】ニュース【一三二・五〇】ニュース【一三三・〇〇】ニュース【一三三・一〇】ニュース【一三三・二〇】ニュース【一三三・三〇】ニュース【一三三・四〇】ニュース【一三三・五〇】ニュース【一三四・〇〇】ニュース【一三四・一〇】ニュース【一三四・二〇】ニュース【一三四・三〇】ニュース【一三四・四〇】ニュース【一三四・五〇】ニュース【一三五・〇〇】ニュース【一三五・一〇】ニュース【一三五・二〇】ニュース【一三五・三〇】ニュース【一三五・四〇】ニュース【一三五・五〇】ニュース【一三六・〇〇】ニュース【一三六・一〇】ニュース【一三六・二〇】ニュース【一三六・三〇】ニュース【一三六・四〇】ニュース【一三六・五〇】ニュース【一三七・〇〇】ニュース【一三七・一〇】ニュース【一三七・二〇】ニュース【一三七・三〇】ニュース【一三七・四〇】ニュース【一三七・五〇】ニュース【一三八・〇〇】ニュース【一三八・一〇】ニュース【一三八・二〇】ニュース【一三八・三〇】ニュース【一三八・四〇】ニュース【一三八・五〇】ニュース【一三九・〇〇】ニュース【一三九・一〇】ニュース【一三九・二〇】ニュース【一三九・三〇】ニュース【一三九・四〇】ニュース【一三九・五〇】ニュース【一四〇・〇〇】ニュース【一四〇・一〇】ニュース【一四〇・二〇】ニュース【一四〇・三〇】ニュース【一四〇・四〇】ニュース【一四〇・五〇】ニュース【一四一・〇〇】ニュース【一四一・一〇】ニュース【一四一・二〇】ニュース【一四一・三〇】ニュース【一四一・四〇】ニュース【一四一・五〇】ニュース【一四二・〇〇】ニュース【一四二・一〇】ニュース【一四二・二〇】ニュース【一四二・三〇】ニュース【一四二・四〇】ニュース【一四二・五〇】ニュース【一四三・〇〇】ニュース【一四三・一〇】ニュース【一四三・二〇】ニュース【一四三・三〇】ニュース【一四三・四〇】ニュース【一四三・五〇】ニュース【一四四・〇〇】ニュース【一四四・一〇】ニュース【一四四・二〇】ニュース【一四四・三〇】ニュース【一四四・四〇】ニュース【一四四・五〇】ニュース【一四五・〇〇】ニュース【一四五・一〇】ニュース【一四五・二〇】ニュース【一四五・三〇】ニュース【一四五・四〇】ニュース【一四五・五〇】ニュース【一四六・〇〇】ニュース【一四六・一〇】ニュース【一四六・二〇】ニュース【一四六・三〇】ニュース【一四六・四〇】ニュース【一四六・五〇】ニュース【一四七・〇〇】ニュース【一四七・一〇】ニュース【一四七・二〇】ニュース【一四七・三〇】ニュース【一四七・四〇】ニュース【一四七・五〇】ニュース【一四八・〇〇】ニュース【一四八・一〇】ニュース【一四八・二〇】ニュース【一四八・三〇】ニュース【一四八・四〇】ニュース【一四八・五〇】ニュース【一四九・〇〇】ニュース【一四九・一〇】ニュース【一四九・二〇】ニュース【一四九・三〇】ニュース【一四九・四〇】ニュース【一四九・五〇】ニュース【一五〇・〇〇】ニュース【一五〇・一〇】ニュース【一五〇・二〇】ニュース【一五〇・三〇】ニュース【一五〇・四〇】ニュース【一五〇・五〇】ニュース【一五一・〇〇】ニュース【一五一・一〇】ニュース【一五一・二〇】ニュース【一五一・三〇】ニュース【一五一・四〇】ニュース【一五一・五〇】ニュース【一五二・〇〇】ニュース【一五二・一〇】ニュース【一五二・二〇】ニュース【一五二・三〇】ニュース【一五二・四〇】ニュース【一五二・五〇】ニュース【一五三・〇〇】ニュース【一五三・一〇】ニュース【一五三・二〇】ニュース【一五三・三〇】ニュース【一五三・四〇】ニュース【一五三・五〇】ニュース【一五四・〇〇】ニュース【一五四・一〇】ニュース【一五四・二〇】ニュース【一五四・三〇】ニュース【一五四・四〇】ニュース【一五四・五〇】ニュース【一五五・〇〇】ニュース【一五五・一〇】ニュース【一五五・二〇】ニュース【一五五・三〇】ニュース【一五五・四〇】ニュース【一五五・五〇】ニュース【一五六・〇〇】ニュース【一五六・一〇】ニュース【一五六・二〇】ニュース【一五六・三〇】ニュース【一五六・四〇】ニュース【一五六・五〇】ニュース【一五七・〇〇】ニュース【一五七・一〇】ニュース【一五七・二〇】ニュース【一五七・三〇】ニュース【一五七・四〇】ニュース【一五七・五〇】ニュース【一五八・〇〇】ニュース【一五八・一〇】ニュース【一五八・二〇】ニュース【一五八・三〇】ニュース【一五八・四〇】ニュース【一五八・五〇】ニュース【一五九・〇〇】ニュース【一五九・一〇】ニュース【一五九・二〇】ニュース【一五九・三〇】ニュース【一五九・四〇】ニュース【一五九・五〇】ニュース【一六〇・〇〇】ニュース【一六〇・一〇】ニュース【一六〇・二〇】ニュース【一六〇・三〇】ニュース【一六〇・四〇】ニュース【一六〇・五〇】ニュース【一六一・〇〇】ニュース【一六一・一〇】ニュース【一六一・二〇】ニュース【一六一・三〇】ニュース【一六一・四〇】ニュース【一六一・五〇】ニュース【一六二・〇〇】ニュース【一六二・一〇】ニュース【一六二・二〇】ニュース【一六二・三〇】ニュース【一六二・四〇】ニュース【一六二・五〇】ニュース【一六三・〇〇】ニュース【一六三・一〇】ニュース【一六三・二〇】ニュース【一六三・三〇】ニュース【一六三・四〇】ニュース【一六三・五〇】ニュース【一六四・〇〇】ニュース【一六四・一〇】ニュース【一六四・二〇】ニュース【一六四・三〇】ニュース【一六四・四〇】ニュース【一六四・五〇】ニュース【一六五・〇〇】ニュース【一六五・一〇】ニュース【一六五・二〇】ニュース【一六五・三〇】ニュース【一六五・四〇】ニュース【一六五・五〇】ニュース【一六六・〇〇】ニュース【一六六・一〇】ニュース【一六六・二〇】ニュース【一六六・三〇】ニュース【一六六・四〇】ニュース【一六六・五〇】ニュース【一六七・〇〇】ニュース【一六七・一〇】ニュース【一六七・二〇】ニュース【一六七・三〇】ニュース【一六七・四〇】ニュース【一六七・五〇】ニュース【一六八・〇〇】ニュース【一六八・一〇】ニュース【一六八・二〇】ニュース【一六八・三〇】ニュース【一六八・四〇】ニュース【一六八・五〇】ニュース【一六九・〇〇】ニュース【一六九・一〇】ニュース【一六九・二〇】ニュース【一六九・三〇】ニュース【一六九・四〇】ニュース【一六九・五〇】ニュース【一七〇・〇〇】ニュース【一七〇・一〇】ニュース【一七〇・二〇】ニュース【一七〇・三〇】ニュース【一七〇・四〇】ニュース【一七〇・五〇】ニュース【一七一・〇〇】ニュース【一七一・一〇】ニュース【一七一・二〇】ニュース【一七一・三〇】ニュース【一七一・四〇】ニュース【一七一・五〇】ニュース【一七二・〇〇】ニュース【一七二・一〇】ニュース【一七二・二〇】ニュース【一七二・三〇】ニュース【一七二・四〇】ニュース【一七二・五〇】ニュース【一七三・〇〇】ニュース【一七三・一〇】ニュース【一七三・二〇】ニュース【一七三・三〇】ニュース【一七三・四〇】ニュース【一七三・五〇】ニュース【一七四・〇〇】ニュース【一七四・一〇】ニュース【一七四・二〇】ニュース【一七四・三〇】ニュース【一七四・四〇】ニュース【一七四・五〇】ニュース【一七五・〇〇】ニュース【一七五・一〇】ニュース【一七五・二〇】ニュース【一七五・三〇】ニュース【一七五・四〇】ニュース【一七五・五〇】ニュース【一七六・〇〇】ニュース【一七六・一〇】ニュース【一七六・二〇】ニュース【一七六・三〇】ニュース【一七六・四〇】ニュース【一七六・五〇】ニュース【一七七・〇〇】ニュース【一七七・一〇】ニュース【一七七・二〇】ニュース【一七七・三〇】ニュース【一七七・四〇】ニュース【一七七・五〇】ニュース【一七八・〇〇】ニュース【一七八・一〇】ニュース【一七八・二〇】ニュース【一七八・三〇】ニュース【一七八・四〇】ニュース【一七八・五〇】ニュース【一七九・〇〇】ニュース【一七九・一〇】ニュース【一七九・二〇】ニュース【一七九・三〇】ニュース【一七九・四〇】ニュース【一七九・五〇】ニュース【一八〇・〇〇】ニュース【一八〇・一〇】ニュース【一八〇・二〇】ニュース【一八〇・三〇】ニュース【一八〇・四〇】ニュース【一八〇・五〇】ニュース【一八一・〇〇】ニュース【一八一・一〇】ニュース【一八一・二〇】ニュース【一八一・三〇】ニュース【一八一・四〇】ニュース【一八一・五〇】ニュース【一八二・〇〇】ニュース【一八二・一〇】ニュース【一八二・二〇】ニュース【一八二・三〇】ニュース【一八二・四〇】ニュース【一八二・五〇】ニュース【一八三・〇〇】ニュース【一八三・一〇】ニュース【一八三・二〇】ニュース【一八三・三〇】ニュース【一八三・四〇】ニュース【一八三・五〇】ニュース【一八四・〇〇】ニュース【一八四・一〇】ニュース【一八四・二〇】ニュース【一八四・三〇】ニュース【一八四・四〇】ニュース【一八四・五〇】ニュース【一八五・〇〇】ニュース【一八五・一〇】ニュース【一八五・二〇】ニュース【一八五・三〇】ニュース【一八五・四〇】ニュース【一八五・五〇】ニュース【一八六・〇〇】ニュース【一八六・一〇】ニュース【一八六・二〇】ニュース【一八六・三〇】ニュース【一八六・四〇】ニュース【一八六・五〇】ニュース【一八七・〇〇】ニュース【一八七・一〇】ニュース【一八七・二〇】ニュース【一八七・三〇】ニュース【一八七・四〇】ニュース【一八七・五〇】ニュース【一八八・〇〇】ニュース【一八八・一〇】ニュース【一八八・二〇】ニュース【一八八・三〇】ニュース【一八八・四〇】ニュース【一八八・五〇】ニュース【一八九・〇〇】ニュース【一八九・一〇】ニュース【一八九・二〇】ニュース【一八九・三〇】ニュース【一八九・四〇】ニュース【一八九・五〇】ニュース【一九〇・〇〇】ニュース【一九〇・一〇】ニュース【一九〇・二〇】ニュース【一九〇・三〇】ニュース【一九〇・四〇】ニュース【一九〇・五〇】ニュース【一九一・〇〇】ニュース【一九一・一〇】ニュース【一九一・二〇】ニュース【一九一・三〇】ニュース【一九一・四〇】ニュ

銃後完璧のために
州民六十萬を動員
四種に分て訓練を行ふ

【台中電話】台中州では州民に時局認識を徹底ならしめ銃後奉公の万全を期するため新年度より台中州青少年団を組織し銃後の守りを固めると共に青少年団員を動員して銃後の守りを強化する事となり、その組織については現在の組織を強化するため州に青少年団総動員本部を置き市郡に支部を設け、各庁長官が二位一體（一體）として実施する事に決定、尚本運動において動員される人員は凡そ六十万人と称されその編成は一團を
（一）男子青年隊（十五歳以上二十五歳以下の者）
（二）女子青年隊（右に同じ）
（三）壮年隊（二十八歳以上三十五歳以下の者）
（四）婦人隊（右に同じ）
の四種別に区別される訳で各団体の訓練は
（一）学校は必要に應じその關係全員をもつて團又は隊を組織する事を得、そして團における各隊の幹部訓練日は一ヶ年を通じ十日以上とし通算訓練日は一ヶ年を通じ十日以上になつて居り、実際優秀なるものは本部より表彰される筈である
（二）官公衙、會社、工場、會社、学校は必要に應じその關係全員をもつて團又は隊を組織する事を得、そして團における各隊の幹部訓練日は一ヶ年を通じ十日以上とし通算訓練日は一ヶ年を通じ十日以上になつて居り、実際優秀なるものは本部より表彰される筈である

各機關を動員して
金報國運動に拍車
廳下から死藏金を一掃

【花蓮港電話】花蓮港では昨年目的を達成すべく計畫を進めて居る

慰安劇　彰化郡鹿港街後援會、国防婦人會彰化支部、警察部、国防婦人會彰化支部に於ては軍人家族慰安として歌仙劇團を招聘し、去る廿一日より二日間「大西郷傳」を三回に亘り開演、二日目の廿二日は午後一時より同二時半迄、三時半より同五時半迄、夜は七時半より同九時半迄の四回に亘り開演、何れも滿員の盛況であつた

高原廳長視察　【花蓮港電話】高原廳長は二十二日から五日間の豫定で郡内、玉里出張所下の事務視察をなす

十時より州會議室　に於て開催される州協議會は四百八十七万四千一百十一円の增（外に特別豫算總額百四十九万二千四百二十二円）の總額を以て昨年度に比し二十五万七千四百十一円の增、外に特別豫算總額百四十九万二千四百二十二円の增、外に特別豫算總額百四十九万二千四百二十二円の增、外に特別豫算總額百四十九万二千四百二十二

肺結核で死亡

病床生活三年

阿久津さえ子

肺結核

記者座談会

私

「結核は者患核結」一日に何を

どれだけ食べればよいか？

結核発病から治癒まで

自然治癒力増強法

天使も

明色固煉石鹸

明色粉白

明色粉白

水白粉

夜会粉白

美しく抜けて

肌白く

明色固煉石鹸

明色粉白

水白粉

夜会粉白

美しく抜けて

肌白く

大正製薬

大衛生

大衛生

大衛生

戰史に更に輝く 修水河の敵前渡河戰

三時間で見事な戰果を收む

敵が半歲を費した 要害無比の堅壘

僅か數時間で突入

飯野部隊長が負傷

擔架に乘つて部下を督勵

【漢口二十一日發本社特電】修水河の敵前渡河はわが國軍なる戰備と作戰の至當果敢無雙なる將兵の犧牲との三位一體によつて戰史不朽の大成功を收めたが現地に於て敵前渡河を指導した○○部隊長は二十二日漢口に歸還、壯絶なる渡河快擧につき左の如く語つた

修水河岸一帶は連日降り續いた暴雨の爲增水する幅河川氾濫し一面泥濘と湖水の海と化してゐたがわが軍はこの惡天候と闘ひつつ內部の裡に着々戰備を進め敵備萬全ならんを先づ十八日一部を以て○○附近より修水河の支流を渡河水修東方のテルタに敵前上陸を敢行進擊の態勢を見せて敵を吸引しつつ主力は水修西方數里の岩山、劉庄に亘る北岸に集結して敵の殲滅を待つた、時こそよし二十日漢口全線一齊渡河開始の命令だ、從來大規模の敵前渡河は何れも掩護射撃行はれるのが定石だが今回は敵の意表を衝き敵岸を碧空だのだ、之より先北岸一帶に陣地を布いて待機してゐた山田、角田、武井、宇賀、藤本、森山、黒松等の各部隊は午後二時三十分砲撃より一齊に○○附近上流の敵陣に一時間に亘つて對岸の敵陣に約五百發の砲彈を浴せた、地響も折れんばかりのわが猛砲擊下に一部隊は劉庄、陳庄の敵陣目がけて敵前渡河を開始した、河岸一帶に煙幕が張られ續いて古賀機、小池部隊の勇士が渡河用舟艇を以て渡河部隊の先頭に起つて河岸に殺到した、輕裝の先陣部隊がドンと舟艇に乘込むや○○發の舟艇が先の勇士の力漕で勁い渦を卷きつつ奔流す

時二十分前後より一齊に 日岡の砲口を開き約二時間に亘つて對岸の敵陣に約五百發の砲彈を浴せた、地響も折れんばかりのわが猛砲擊下に一部隊は劉庄、陳庄の敵陣目がけて敵前渡河を開始した、河岸一帶に煙幕が張られ續いて古賀機、小池部隊の勇士が渡河用舟艇を以て渡河部隊の先頭に起つて河岸に殺到した、輕裝の先陣部隊がドンと舟艇に乘込むや○○發の舟艇が先の勇士の力漕で勁い渦を卷きつつ奔流す

る敵水を橫切つて行く、わが猛砲擊に一時鳴りを鎭めてゐた敵陣もわが渡河開始と

同時に 猛烈十字砲火を浴せて來たが固より之を物ともせず我が勇士は敵陣目がけて殺到岸に躍るもどかしく決死の先陣部隊第一は舟艇を乘捨てるや一團となり敵第一線に突入、一氣にそれを奪取したものである、上流部隊の渡河完了は午後七時廿分、下流部隊は午後八時三十五分渡河の命令が下つてから僅々二時間未滿にしてこの大作戰は完成せられた

【漢口二十一日發本社特電】二十日夕刻○○攻略戰の火蓋を切つて以來僅か數時間にして決河の勢ひをもつて壓攻する我軍の壓力に堪くも凄た敵水修岸の敵陣地は○○防衛の第一線として敵が半歲を費やして構築した堅固無比の堅壘で海濱鐵條網の敵陣を幾く程の金城湯池と恃まれただけに修水河岸に數百數十條に亘り數線の鐵條網を張りめぐらし網の目の如く壕を掘り至る所に機關銃陣地等を築いてゐる狀態、對岸則面には一里半乃至二里に亘つて東次第による火砲を設け要所々々に敵陣を敷き太平洋山東部及び修水河岸を第一線、黃庄、劉竹浦、陳庄を通ずる

問發は悉く敵兵舍に命中する事になつた

高砂丸新裝なり神戸を出帆

【神戸二十二日發本社特電】定期船でドック入りをしてゐた高砂丸は新裝なつて出帆した、古川松太郎、三好正雄、陳清波氏等外兩員の送別

吉川氏談 約束の品物では足らないが實際ないのだから仕方がないらしい、然し又一ヶ月はどんどん出來てゐるから、まあ供給に心配ないが政府の消費節約方針に服從せねばならぬ、つまり色も白、黒、紺、茶、カーキ色と五色に統制された二種民族、衣服ゴム工業會社も漸く設立の目鼻が付き多分來月中旬には出來ると思ふ、大體生ゴムの配給も受ける筈になつたが古ゴムも隨分澤山にあるのでこの方が一層になる譯だ

箱根丸基隆に寄港

【基隆電話】歐洲航路往航箱根丸は二十二日午後一時二十分基隆に着いたが、知名者は羅馬駐在一等通訳官井上敬吾氏、津島半織會出會社技師射場三氏、日獨伊へ詩の親善使節として渡歐する淺尾新聞學子女史等であつた、基隆上陸二十八名、基隆からの乘客は新內氏外十九名で、同日午後七時出航したが船客二十餘名は碇泊中の時間を利用し1局當ス、スにて、台北見物に出かけた

一齊に、一團の敵陣に一時鳴りを鎭めてゐた敵陣もわが渡河開始と

同時に 猛烈十字砲火を浴せて來たが固より之を物ともせず我が勇士は敵陣目がけて殺到岸に躍るもどかしく決死の先陣部隊第一は舟艇を乘捨てるや一團となり敵第一線に突入、一氣にそれを奪取したものである、上流部隊の渡河完了は午後七時廿分、下流部隊は午後八時三十五分渡河の命令が下つてから僅々二時間未滿にしてこの大作戰は完成せられた

【漢口二十一日發本社特電】二十日夕刻○○攻略戰の火蓋を切つて以來僅か數時間にして決河の勢ひをもつて壓攻する我軍の壓力に堪くも凄た敵水修岸の敵陣地は○○防衛の第一線として敵が半歲を費やして構築した堅固無比の堅壘で海濱鐵條網の敵陣を幾く程の金城湯池と恃まれただけに修水河岸に數百數十條に亘り數線の鐵條網を張りめぐらし網の目の如く壕を掘り至る所に機關銃陣地等を築いてゐる狀態、對岸則面には一里半乃至二里に亘つて東次第による火砲を設け要所々々に敵陣を敷き太平洋山東部及び修水河岸を第

【漢口二十一日發本社特電】修水河の敵前渡河はわが國軍なる戰備と作戰の至當果敢無雙なる將兵の犧牲との三位一體によつて戰史不朽の大成功を收めたが現地に於て敵前渡河を指導した○○部隊長は二十二日漢口に歸還、壯絶なる渡河快擧につき左の如く語つた

修水河岸一帶は連日降り續いた暴雨の爲增水する幅河川氾濫し一面泥濘と湖水の海と化してゐたがわが軍はこの惡天候と闘ひつつ內部の裡に着々戰備を進め敵備萬全ならんを先づ十八日

一部を 以て○○附近より修水河の支流を渡河水修東方のテルタに敵前上陸を敢行進擊の態勢を見せて敵を吸引しつつ主力は水修西方數里の岩山、劉庄に亘る北岸に集結して敵の殲滅を待つた、時こそよし二十日漢口全線一齊渡河開始の命令だ、從來大規模の敵前渡河は何れも掩護射撃行はれるのが定石だが今回は敵の意表を衝き敵岸を碧空だのだ、之より先北岸一帶に陣地を布いて待機してゐた山田、角田、武井、宇賀、藤本、森山、黒松等の各部隊は午後二

1

2

3

海南島の殘敵を掃蕩

(1)殘敵掃蕩戰東隊の猛進擊戰　(2)海南島○○に於ける渡河進擊　(3)掩壕より應戰中の○○部隊　文昌附近大園方面)

陸軍省許可濟

排日には無關心

秘かに日本の援助を期待

印度の本心は親日へ

【倫敦電話】商船ハンブルグ號はカルカッタ、シンガポールを經て二十二日午後一時高雄に入港した、同船により 送られた 情報 左の如し

獨逸當初から英國は露んに日本の惡宣傳を行ひ印度人は排日氣分をあらはけてゐるが、一般的に無關心で獨立運動と關聯して日本の援助を秘に期待する位だ、日本品に對するボイコットも大衆は追いてこぬためそのままになつてゐる、第一日本品は非常に安價なので印度人から喜ばれて居り、コングレス派も本心は親日的だが植民地のため現在消極的な態度でゐるが、反動的政權でも起ればすつと積極的になりさうに思ふ

葛野技師農博に

中央研究所農藝支所長葛野壯一氏は

旅愁を解く櫻花

臺北驛のプラットフオームに吉野隊が出發に先いて列車裝飾のお花盛りのお客の旅愁を慰めてゐる、これは二十三日朝御里山から直接送り屆けて來たものに相で「ブリッヂの岩根日ぐ大和櫻の香りもゆかしく」の下を盛りと咲き誇つてゐる、今後一週間位が見頃だらうと云ふこと、明後十六日に手を入れてゐる　―【寫眞は撫氣たる阿里山櫻】―

南支戰線の勇士に 海の珍味を御馳走

七星丸使命果して近く歸港

臺、久し振りに海の珍味に接した部隊たちを喜ばせ大歡迎を受けた水產衛進の國策に順應した漁業を完了したので本月末歸港に着する臺灣水產組合の漁船七星丸は、今日この漁獲物を積んだ數々の鮮魚を南支軍事拓殖當局に贈呈した、この漁獲調査は州廳と臺灣水產組合が提携し行つたもので州

台北州水產試驗所と基隆は黒潮の流れる南海の漁場を探る爲昨年度開設した第一船として去る二月二日基隆を出發南支海南島○○港へ、新開設漁具漁法の實地研究をなしその漁獲した數々の鮮魚を南支軍事當局の慰問品として寄

ドイツ新聞界に 肅正の大旋風

自由主義紙は遂に敗北

【ベルリン發同盟】ドイツ宣傳思想界の大元締ゲッベルス宣傳相は かつて「ナイツには約五百種のフェルキッシャー・ベオバハター」等の御用紙より最も自由主義的な新聞」と迎へたさうだがナチス政權確立の時點ち九三三年二月以來千以上の新聞社が閉鎖した、概ね政府の補助を受ける國粹的新聞紙との競爭に敗北したものだが又二月初め十二新聞社が廢れて注目された、その內有名なものは左の通り

一、ベルリーナー・ターゲブラット（ナイツ最大且つ自由主義的な新聞）

二、クライツ・ツァイトング（一八四八年創立）

三、ノイエ・プライエ・プレッセ

時十九公會堂に於いて開催、聽衆室に溢れ本社從屬中記者を始めに總民報、聯合會、上海日報の各記者の總勢は現地當局の認證を得た、らしめ滿場を感激させ午後十時半盛況裡に閉會した

病人が病床で卵を孵す

【ワイカトー（ニュージーランド）發同盟】ワイカトーの或る病院に入院中のハロルド・ライダーといふ男、病床の無聊に堪へ兼ね看護婦から新しい鷄卵を二個貰ひ日夜ベッドの中でいぢくつてゐたが二十五日目に突然ヒヂホンのひよつ

泥醉して轢れる

二十日午後十二時四十五分台北市新起町三ノ一七先道路で市バス北二四四號（運轉手林榮藏）が方華方面に向つて運行中新起町附近の停留所に停車するべく除行中酩酊の上ふらふらと馬車に向から飛び出し轢かれ全治二週間の重傷を負ひ

【東京二十二日發同盟】國務大相樞は双葉山以下大力士の顏出と時局の波に乘つて隆盛な一途を辿りファンの關心益々增大する一方なので、大日本相撲協會では今年五月場所から期間を一日間延長し、愈々十五日制を實施することになりこの程二十二日相撲協會から正式に發表した

東京大相撲は十五日制に

角道ファンへの吉報

チンパンジーの狂態に訴訟

【ハリウッド發同盟】ハリウッドのキャロリン・フニーバーといふお孃さんはこの程ベラマウント映畫會社を相手どつて五万弗の慰謝料請求訴訟を提起した、その理由は彼女が同社支配人からの招待で「ジヤングルの戰」の撮影場面を見學に行つた際、出演中の黒猩猩で有名なチンパンジー「ジヨン」君が觀衆の喝采にキヤロリン嬢の背中を噛んだといふのである

三孫人商船團から表彰狀と勳章

三孫人商船團勞力から表彰狀と勳章が贈られた、三孫は樹木店で働く傍ら附近一帶は樹木店が總出して居るので一時非常に忙しくなる程繁盛、消防組、壯團が總動員になつて消火に努めたが、火は見る〳〵內に瓦斯、木造二階建一棟二戶及び板葺木造平屋建一棟九戶は灰燼に化し損害木造平屋建一棟は半燒で半燒五時過やつと鎭火した、罹害額は約一万五千円で罹災世帶數は六戶六十餘人の大火であつた原因は目下調査中

喧嘩犧牲者の死體は半燒

火葬場の手違ひ

昨午前二時頃大龍峒保安宮前路上に於て喧嘩犧牲者の死體を火葬場に運搬したが、火葬場の手違ひから半燒のまま放置されてゐるとの投書があつたので、臺北市役所衛生課では之が調査に着手した

諸氏

とともに臺灣總督府より國

四月の新學期から 武道を准正課に

全國小學校で五年以上

【東京二十二日發本社特電】文部省では過般來各府縣當局の意嚮を徵し來る四月の新學期より五年生以上の男兒に對し武道を准正課として課することに決定したが、之が實施に當つては從來の如く兒童の自由意志に委ねるが如き方法を採らず、全員に對し武道の修練を强制する方針で、この程その細目

細目

が決定した

年產百萬圓

高雄州下でヒマ麻を事業化

粗食强健の國策聲

【高雄電話】台灣農會では中部地方の農家一戶當り六十五万斤の生產を見る蓖麻子（ヒマ麻）の增產を計畫し、昨年度より高雄州下に於て事業化を實施し來つたが、本年度は更に之が增產を計畫し、州下各郡に於ける耕地整理の進捗に伴ひ蓖麻子の增產を圖ると共に、粗食强健の國策聲として、之が利用の普及を圖ることとなつた、尙ほ本年度の蓖麻子の增產計畫は左の如くである

一、高雄州下三萬斤

二、臺南州下二萬斤

三、臺中州下一萬斤

四、新竹州下一萬斤

五、臺北州下一萬斤

六、花蓮港廳下一萬斤

七、台東廳下一萬斤

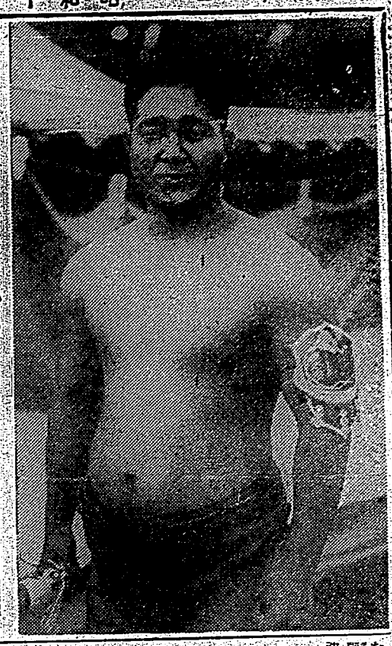
八、澎湖廳下一萬斤

嘉義で十日燒く

【嘉義電話】小雨降り續く二十二日午後四時十分頃嘉義市愛町二丁目女子に對しては此の實話に關し重要な參考となるので一時非常に忙しくなる程繁盛、消防組、壯團が總動員になつて消火に努めたが、火は見る〳〵內に瓦斯、木造二階建一棟二戶及び板葺木造平屋建一棟九戶は灰燼に化し損害木造平屋建一棟は半燒で半燒五時過やつと鎭火した、罹害額は約一万五千円で罹災世帶數は六戶六十餘人の大火であつた原因は目下調査中

スポーツマンから 戰線の一 警備は苦手 僕は突撃向き

相變ず元氣な豐平君



ヘルシンキに外國語が氾濫

勝者に分配金を多く 軍人には無料で公開

日本野球聯盟充實

日本野球聯盟では十五、十六日の兩日東京市役所で理事會を開催、第八回の春季リーグ戰を初め、第十二回オリムピック大會に參加する聯盟關係の諸般の問題に就いて種々協議したが、その中最も注目に値するのは初めて收入金の分配案を協議したことで、その配分率も從來通り參分に、殘りの五割を勝者に、二割五分を敗者にと分配してゐたのを勝者を四割とし、敗者を六割と變更して試合に對するチームの勝敗意識を强める爲めの新味がある一、シーズンを總括して甲、乙に分割して甲は四割、乙は六割とし甲の四割は九チームに平等に乙の六割は勝敗に比例して分配する

一、昨年と同樣全國の各地で行はれる聯盟の公式、非公式を問はず自衣の選手の來場を禁止して發會當初より觀衆の減少を防ぐ爲めに自發的に聯盟の一端としてポスターの掲示、場内アナウンスの勵行、ラインの守備後退を徹底することに決した

一、先きに選手一同は台南神社外苑に集合、知事代理金子地方課長の點呼及び祝詞を受け、一同台南神社に參拝、皇軍の武運長久を祈願し、次いで此の四團で最後のリーグ戰を行つた結果、結局優勝圍が

D の四組に分けてリーグ戰を行つた結果、十六、勝差四、東石、虎尾、四團共、殘り此の四團で最後のリーグ戰を行つた結果、結局優勝圍が

【台南通信】台南州自治協會では體位向上庭球大會を開催するに當つて、第二次戰の成績左の如し

東石 5—0 斗六
嘉義市 2—3 虎尾
東石 2—3 嘉義市
斗六 0—5 虎尾
斗六 0—5 嘉義市
東石 2—3 虎尾

（嘉義は優勝した虎尾團）

虎尾團が優勝

臺南州自治協會の體位向上庭球大會

【台南通信】台南州自治協會では體位向上庭球大會を開催するに當つて、第二次戰の成績左の如し

東石 5—0 斗六
嘉義市 2—3 虎尾
東石 2—3 嘉義市
斗六 0—5 虎尾
斗六 0—5 嘉義市
東石 2—3 虎尾

（嘉義は優勝した虎尾團）

南阿陸上界に アルミのポール

此の程デビューし好評

【ケープタウン發同盟】アルミニユームのポールがさき程行はれたケープタウン陸上競技大會に使はれ初めて南阿陸上競技界にデビューした、このポールは南阿各競技場の、殆んどに備へ付けられるであらう、たゞ一本だけ缺點は重量が少し重過ぎる點であるが、之れは將來改良されるであらう、たゞ一本だけ缺點は重量が少し重過ぎる點であるが、之れは將來改良されるであらう、たゞ一本だけ缺點は重量が少し重過ぎる點であるが、之れは將來改良されるであらう

【リマ發同盟】世界的競技界のマンモス的存在として既に先進國に少なからざる影響を與へてゐる南米

白熱戰の末 ベルー優勝

南米蹴球選手權大會

【リマ發同盟】世界的競技界のマンモス的存在として既に先進國に少なからざる影響を與へてゐる南米

世界選手權に 參加

ホツケー協會全國理事會

大日本ホツケー協會ではヘルシンキ大會にホツケー競技の編入されてゐないのを遺憾とし昨年來國際ホツケー協會と呼應して編入方を工作中であつたが今年に至りヘルシンキ組織委員會事務總長クロギユンス氏より同會がありヘルシンキ大會は必須種目に止める原則と倡導の條件が無い點を理由に拂除して來たので協會では「遺憾」として一應拒否したが、尙ほ交渉中であつたが今年に至りヘルシンキ組織委員會事務總長クロギユンス氏より同會があり、